

# 知多厚生病院 | 年報

(令和 2 年度)

## 発刊にあたり

知多厚生病院 院長 水野 志朗



知多厚生病院は、1964年（昭和39年）6月に愛知県厚生連9番目（当時）の病院として開設され、以後知多半島南部における急性期医療と救急医療の拠点病院として診療に携わってまいりました。平成11年からは知多半島医療圏の第二種感染症指定医療機関、平成14年からは篠島や日間賀島など離島医療を支援するへき地医療拠点病院、平成16年からは臨床研修指定病院、平成19年からは災害拠点病院に指定されるなど、知多半島南部の公的医療機関として重要な責務を果たしております。

当院の主な診療圏である美浜町・南知多町では、愛知県の平均よりも人口減少・少子高齢化が大きく進行しております。また、この地域の各医療機関では医師の高齢化も進み、医療の確保が難しくなってくるのが予想されています。

令和2年度の医療情勢を振り返ると、新型コロナウイルスの対応に追われた一年でもありました。当院でも愛知県内の感染者増加に伴い接触者外来・発熱外来を設置するとともに、感染症病棟で入院患者を受け入れました。最終的には接触者外来・発熱外来1,843名、入院患者延べ1,224名（実患者119名）に対応し、地域の流行度合いに合わせ院内の対応も変化させ、地域のまん延防止に努めてきました。

また従来より医師をはじめとした医療職の不足が経営課題となっており、「地域包括ケアシステム」における医療に経営資源を集中するため、病床の削減と再編を8月に実施しました。救急医療の充実と地域の医療機関や介護施設との連携により、救急患者の受け入れ増加・紹介患者の増加などにより医業収益が増加して収支改善となりました。

現在のコロナ禍の中で、健康が人々の生活の根源であり、医療がその根源を支えていることを実感しております。知多厚生病院は『保健・医療・福祉の活動を通じて、地域住民が安心して暮らせる地域社会づくりに貢献する』という病院理念に基づき、地域とともに地域を考え、『Aging in Place知多半島モデル』を構築し、さらにこの地域の一員として『まちづくりの拠点』としてもお役に立てますよう、職員一同全力を尽くし取り組んで参ります。今後とも皆様のご指導とご支援を宜しくお願い申し上げます。

令和3年12月

# 病院基本情報

---

理念・基本方針	1
病院概要	2
病院沿革	4
組織・機構図	6
会議・委員会組織図	8
令和2年度事業計画	9

## 知多厚生病院 理念

私たちは保健・医療・福祉の活動を通じて、地域住民が安心して暮らせる地域社会づくりに貢献します。

## 知多厚生病院 基本方針

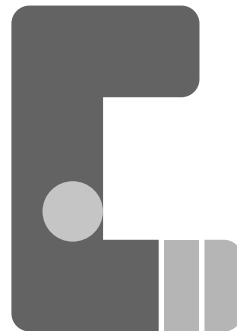
- 1、地域住民のニーズに応える診療体制の充実に努めます。
- 1、救急医療・災害医療の充実に努めます。
- 1、医療技術と接遇向上に努めます。
- 1、患者の権利とプライバシーを尊重し、安全で快適な、患者中心の医療サービスを提供します。

### ●ロゴマークについて

ロゴマーク全体で、知多厚生病院（Chitakosei Hospital）の頭文字“C”と、知多半島を表しています。

また、右下の2つの四角は、篠島・日間賀島を、丸は、知多半島における当院の位置を表しています。

全体として、知多半島をイメージさせる海・空の色である明るい青を基調に、開放感・希望を、知多半島全域で盛んな農業（JA）をイメージさせる明るい緑は安心・安全・癒しを、美浜町を中心に栽培が盛んなみかんや、太陽をイメージさせる明るいオレンジは、躍動感・歓喜・溢れる生命感を表しています。



## 知多厚生病院 概要

令和3年3月31日 現在

### 名 称

愛知県厚生農業協同組合連合会 知多厚生病院

### 所在地

〒470-2404

愛知県知多郡美浜町大字河和字西谷81番地6

TEL 0569-82-0395

FAX 0569-82-4333

E-MAIL c-hospital@chita.jaaikosei.or.jp

ホームページ <https://chita.jaaikosei.or.jp>

### 設立年月日

昭和39年6月1日

### 病床数

199床（一般193床（地域包括ケア病棟85床含む） 感染症6床）

### 診療科（25科）

内科・呼吸器内科・循環器内科・消化器内科・糖尿病内科・神経内科・血液内科・小児科・外科・消化器外科・乳腺外科・肛門外科・内視鏡外科・血管外科・整形外科・リウマチ科・脳神経外科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻いんこう科・リハビリテーション科・放射線科・麻酔科

### 各種指定

救急告示病院、地域災害拠点病院、へき地医療拠点病院、臨床研修指定病院、労災指定医療機関、母体保護法指定医療機関、生活保護法指定医療機関、指定自立支援医療機関、更生・育成医療指定医療機関、養育医療指定医療機関、性病予防法指定医療機関、被爆者一般疾病指定医療機関、健康保険法指定医療機関、国民健康保険指定医療機関、第2種感染症指定医療機関、肝疾患専門医療機関、病院群輪番制病院、特定疾病治療研究医療機関、小児慢性特定疾病治療研究医療機関、愛知DMAT指定医療機関、人間ドック健診施設機能評価認定、医療被ばく低減施設認定

## 関連施設

知多厚生病院健康管理支援センター  
知多厚生病院介護保険センター  
南部知多訪問看護ステーション  
知多厚生病院附属篠島診療所

## 管理者

病院長： 水野 志朗  
副院長： 脇田 郷、高橋 佳嗣、丹村 敏則、村元 雅之  
第1診療部長： 村元 雅之                      第2診療部長： 富本 茂裕  
診療協同部長： 福島 庸行                      医療情報部長： 中塚 雅雄  
薬剤部長： 齋藤 宏明                      看護部長： 近藤 貴代  
地域医療福祉連携部長： 近藤 貴代                      事務部長： 池田 智志

## 知多厚生病院 沿革

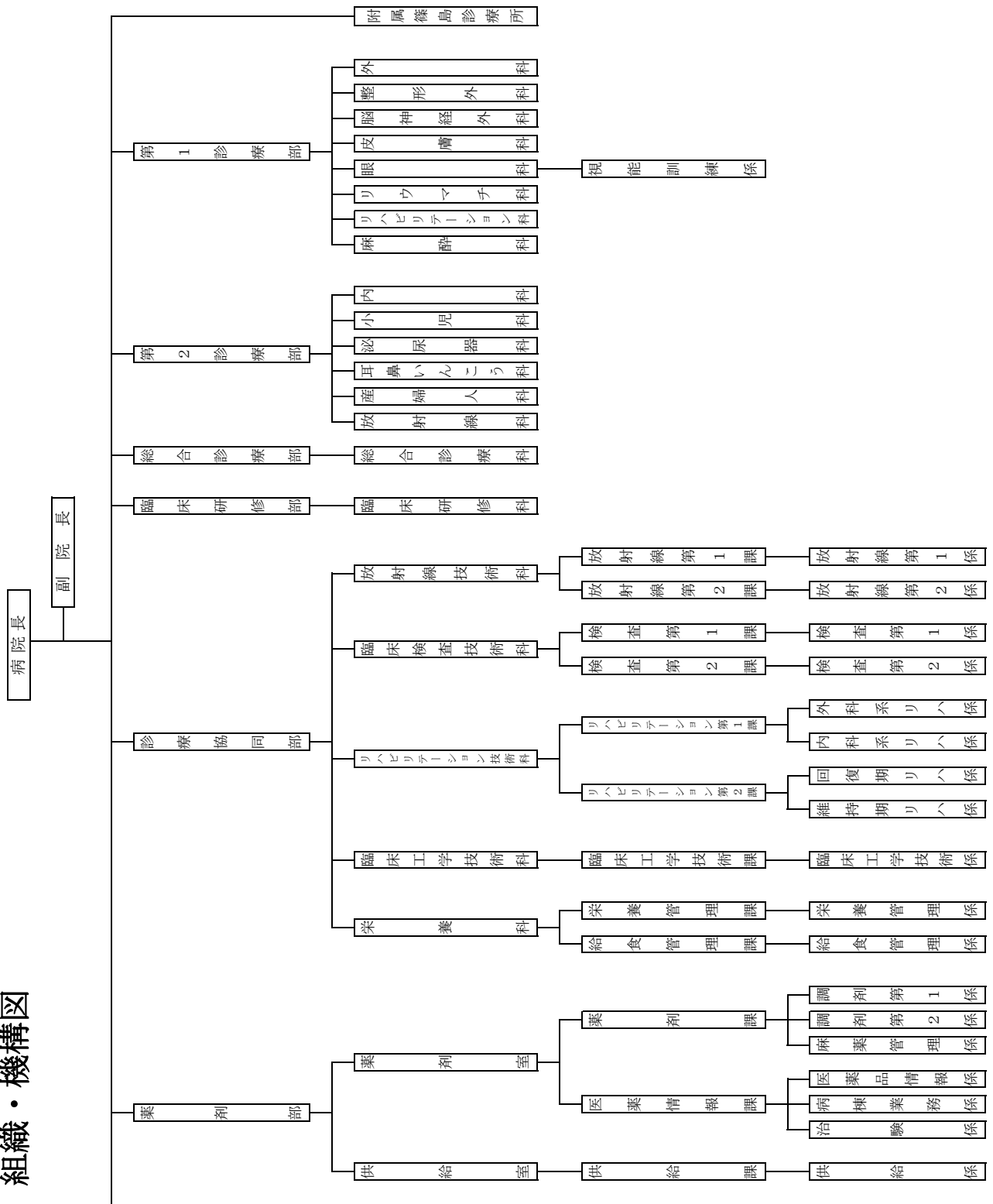
令和3年3月31日 現在

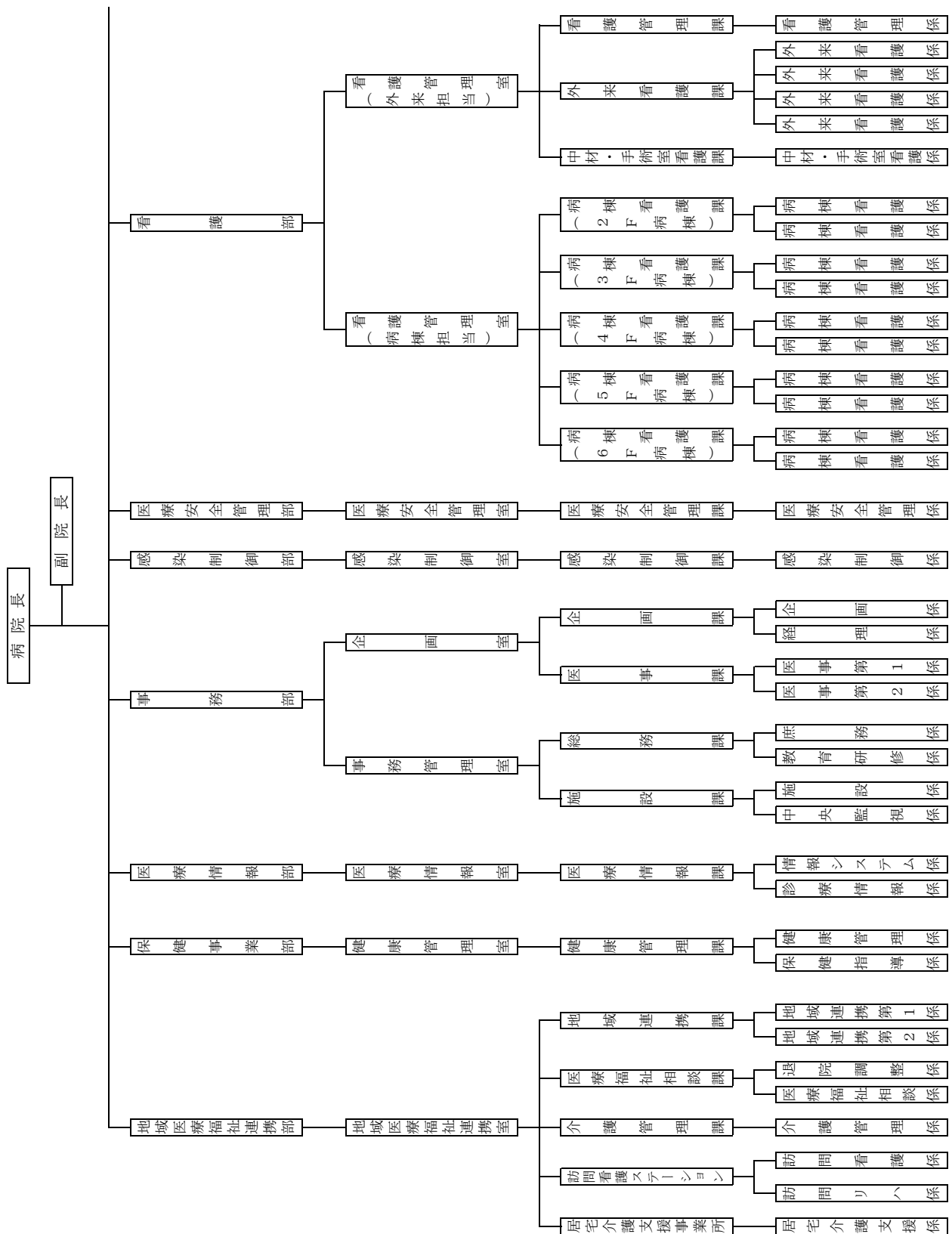
昭和38年	3月	知多郡美浜町河和に厚生連病院建設決定
昭和39年	6月	知多厚生病院診療開始 内科・外科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科 病床数 113床
昭和42年	3月	美浜町・南知多町伝染病組合伝染病舎24床併設 (病床数 137床)
昭和43年	10月	病棟増築(病床数 179床)
昭和49年	7月	救急医療施設開設 整形外科開設 病棟・リハビリ棟増築(病床数 217床)
昭和54年	2月	総合病院として認可
昭和55年	6月	厨房の整備 病棟増築(病床数 222床)
昭和57年	3月	診療棟増改築
	4月	小児科開設
	6月	皮膚科開設
昭和58年	1月	放射線科開設
	2月	病棟増改築・伝染病舎改築(病床数 277床)
平成3年	10月	知多厚生病院附属篠島診療所開設
平成6年	4月	脳神経外科開設
平成8年	4月	泌尿器科開設
平成9年	10月	南部知多訪問看護ステーション開設
平成10年	3月	病棟改築(病床数 一般260床・伝染8床)
平成11年	4月	第2種感染症指定医療機関指定 (病床数 一般260床・感染6床)
平成11年	10月	居宅介護支援事業所 知多厚生病院介護保険センター開設
平成14年	2月	療養型病床開設(病床数 一般212床・療養48床・感染6床)
	4月	へき地医療拠点病院指定
平成15年	5月	病床区分変更(病床数 一般206床・療養54床・感染6床)
	10月	臨床研修病院指定
平成16年	5月	オーダリングシステム稼働



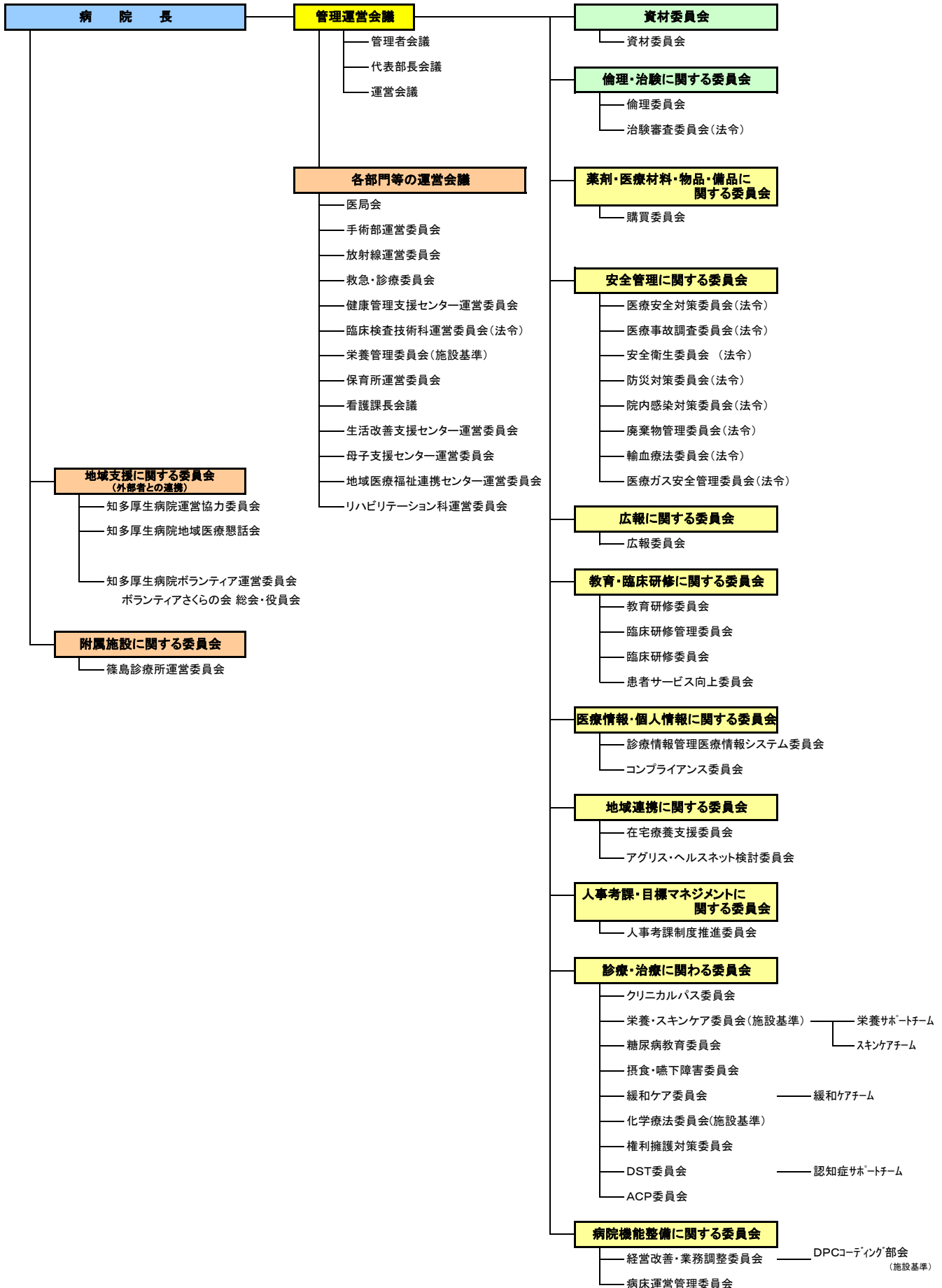
平成19年	3月	災害拠点病院指定
	7月	病院機能評価認定（Ver. 5.0）
平成21年	8月	診療棟改築 電子カルテシステム稼働 ID-Link導入
平成22年	9月	病床区分変更（病床数 一般199床・療養54床・感染6床）
平成23年	7月	病院機能評価認定（Ver. 6.0）
平成23年	9月	7対1入院基本料取得
平成25年	12月	DMA T（災害派遣医療チーム）結成
平成26年	4月	DPC（診断群分類）対象病院
	6月	回復期リハビリテーション病棟開設 （一般 [7対1看護基準] 149床、回復期リハ50床、療養54床、感染6床）
	9月	開院50周年記念式典・病院祭開催
	11月	美浜町産業まつりのほか、武豊町産業まつりへも新規出展
平成27年	7月	認知症対応力向上事業実施病院
平成28年	4月	DMA Tを派遣（熊本地震）
平成29年	1月	厨房改修工事完工
	3月	電子カルテシステム更新
平成29年	5月	医療被ばく低減施設認定
	7月	人間ドック健診施設機能評価認定
平成30年	2月	地域包括ケア病棟開設 （回復期リハビリテーション病棟より転換） （一般 [7対1看護基準] 149床、地域包括ケア50床、療養54床、感染6床）
平成30年	12月	病床区分変更 （一般 [7対1看護基準] 157床、地域包括ケア42床、療養54床、感染6床）
平成31年	2月	オンライン診療・オンライン服薬指導開始
令和 元年	5月	ホームページリニューアル ベッドコントロールワークショップ開催 （病床運営管理委員会主催） CT装置更新
令和 2年	2月	感染症病棟 COVID-19疑い患者受け入れ
令和 2年	3月	COVID-19帰国者・接触者外来を開設 COVID-19発熱外来を設置
令和 2年	8月	病床削減・病床区分変更（療養病床廃止）病床数199床 （一般 [7対1看護基準] 108床、地域包括ケア85床、感染6床）

組織・機構図





知多厚生病院 会議・委員会組織図



環境認識	<p>当院の主な診療圏である美浜町、南知多町は、少子高齢化、人口減少が著しく進んでいる地域であるが、医療や介護を必要とする高齢者数は一定数の需要が残る地域でもある。当院は、知多半島南部における唯一の公的医療機関として、救急をはじめとした政策医療を担う当院の果たすべき役割をさらに明確化し、地域連携をより強固なものとして、地域の需要に応じていく必要がある。反面、少子化による働き手の減少は、よりいっそう深刻化することが想定され、看護師や介護職、調理員だけでなく、委託職員確保などの雇用確保対策が必要となる。それと同時に、医師不足は顕著な課題であり、今後、雇用に関わる取り組みは働き方改革は勿論のこと、医師確保などでは大胆且つ壮大な取り組みの検討が必要となる。</p> <p>私たち知多厚生病院は、「保健・医療・福祉の活動を通じて、地域住民が安心して暮らせる地域社会づくりに貢献します」という理念のもと、改めて知多半島南部地域における唯一の中核病院かつ公的医療機関としての役割を再確認するとともに、時代の変化に合わせた自らの改革を積極的に検討するとともに、経営の効率化を中心とした持続可能な病院経営を目指すことが求められている。</p>
基本方針	<p>地域における我々の役割を再認識するとともに、下記項目において前向き且つ変革を伴う行動を実践する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知多半島医療圏の医療機関や施設との連携を強化し、地域全体で患者に安全で良質な医療を提供できる体制の構築を検討する（地域医療構想と地域包括ケアシステムの推進）</li> <li>2. 救急医療を中心とした地域における急性期医療を担う病院として、救急患者や紹介患者の積極的な受け入れを行うとともに、限られた病床資源を有効活用する手立てを職員全員で検討する</li> <li>3. 地域の高齢者介護需要を的確に分析し、当院の果たすべき役割に則った高齢者介護及び福祉事業を構築する</li> <li>4. これまで培ってきた災害医療の分野、へき地医療の分野、及び感染症医療の分野について、継続して知多半島医療圏における中心的な役割を担う</li> <li>5. 職員一人ひとりがやりがいを持って働けるよう地域に根ざした病院づくりを目指すとともに、医師をはじめとした医療・介護従事者が当院で働きたいと思えるような風土づくりに邁進する</li> </ol>

重点事項	実施目標	目標達成のための具体的行動計画
① 診療機能の充実	救急医療体制の維持	不応需件数の減少
	診療体制の整備	各科診療体制の検討（医師確保） 紹介患者受入体制の整備 患者の容態に応じた病床の運用 初期研修医・専攻医の確保 要員の確保と適正配置
	災害拠点病院の充実	災害訓練や職員に対する研修の実施
	へき地医療拠点病院の充実	離島医療（篠島診療所）の維持 へき地医療研修の継続
	診療支援機能の強化	効率的な薬剤管理指導 効率的なリハビリ提供体制の検討 栄養指導の充実
	② 医療の質、安全強化	医療安全の充実
感染対策の更なる質の向上		関係機関との連携、データ活用の検討 研修会の開催 ICT、ASTラウンドの継続実施
医療の質向上		検査件数増による医療の質向上（CT・MRIの活用） 診療録管理の効率化 患者サービスの向上
チーム医療の推進		多職種が協同した専門的ケアチームの活動の拡大

<b>③ 地域との連携強化</b>	
地域連携の強化	関連機関への訪問 地域医療構想を意識した地域基幹病院（半田・常滑）との連携構築 退院支援、在宅復帰支援体制の充実
行政・医師会・JA・住民との連携	美浜町・南知多町との定期協議の継続 地元医師会との連携強化 JAとの連携強化 地域への情報発信方法の研究（広報等との連動）
<b>④ 保健事業</b>	
健診事業の充実	健診項目の見直しと価格の適正化 新たな保健収益事業増収案の検討
保健事業活動の充実	生活改善支援・母子支援活動の充実
<b>⑤ 福祉・介護事業</b>	
福祉・介護事業の充実	療養病床の今後の方針検討 介護職要員の確保 福祉介護サービスの機能再検討 地域包括ケアシステムへの取り組み
<b>⑥ 経営管理</b>	
経営危機脱却に向けた取り組み	効率的な病床運営（病棟別に目標稼働率を設定した進捗管理） 7対1看護基準の維持（入院料1の維持） 各部署の必要人員の精査及び適正化 経費削減などコスト管理及び職員個々のコスト意識の醸成 委託業務の見直しと最適化 各種データをもとにした院内機能の見直しや新たな対策の研究
広報活動の強化	住民公開講座及び患者教室の再構築 地元メディアや企業との連携
<b>⑦ その他</b>	
教育研修機能の充実	地域医療を支える人材の育成 各職種の専門スキル向上
職場環境の向上	働き方改革に伴う各種取り組みの実践 医師をはじめとした、職員にとって魅力ある職場づくりの検討



# 統計資料

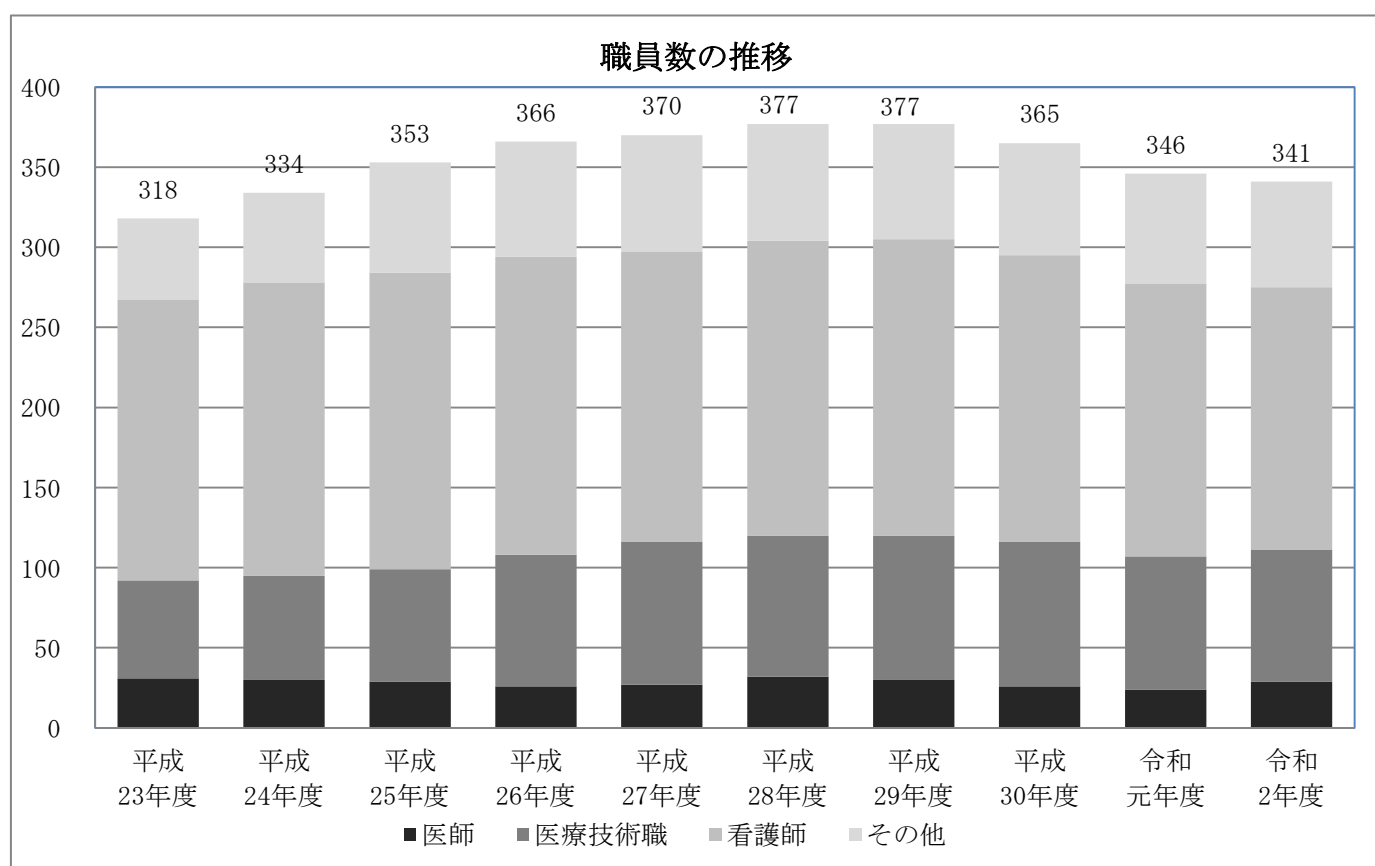
---

職員数の推移……………	12
過去3か年の推移	
診療科別延べ患者数……………	13
科別時間外患者取扱数……………	14
市町村別時間外患者取扱数……………	14
市町村別時間外患者 (救急車搬入件数)……………	14
診療科別在院延べ患者数 及び新入院患者数……………	15
診療科別退院患者数 及び平均在院日数……………	16

## ■ 職員数の推移

	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度
医師	31	30	29	26	27	32	30	26	24	29
医療技術職	61	65	70	82	89	88	90	90	83	82
看護師	175	183	185	186	181	184	185	179	170	164
その他	51	56	69	72	73	73	72	70	69	66
総数	318	334	353	366	370	377	377	365	346	341

※ その他・・・事務職、技能職、作業職





## ■ 過去3カ年の推移

### 1. 診療科別延べ患者数（医療＋介護）

年度	平成30年度		令和元年度				令和2年度			
	外来	入院	外来		入院		外来		入院	
科	患者数	患者数	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比
内科	43,422	23,871	39,733	91.5%	27,538	115.4%	36,965	93.0%	24,632	89.4%
小児科	9,207	52	8,806	95.6%	43	82.7%	5,305	60.2%	68	158.1%
外科	7,408	5,598	7,755	104.7%	6,129	109.5%	7,699	99.3%	6,324	103.2%
整形外科	25,469	9,396	21,367	83.9%	4,807	51.2%	20,159	94.3%	8,801	183.1%
脳神経外科	17,029	15,885	17,570	103.2%	15,568	98.0%	17,205	97.9%	17,720	113.8%
皮膚科	7,227	3	6,269	86.7%	9	300.0%	12,322	196.6%	1,196	13,288.9%
泌尿器科	7,702	636	7,391	96.0%	468	73.6%	7,028	95.1%	435	92.9%
産婦人科	4,609	431	4,580	99.4%	807	187.2%	4,484	97.9%	772	95.7%
眼科	9,405	811	11,763	125.1%	1,243	153.3%	9,602	81.6%	1,130	90.9%
耳鼻 いんこう科	13,650	813	12,744	93.4%	533	65.6%	9,090	71.3%	199	37.3%
篠島/ 療養介護	3,945	13,206	3,734	94.7%	13,579	102.8%	3,528	94.5%	3,588	26.4%
合計	149,073	70,702	141,712	95.1%	70,724	100.0%	133,387	94.1%	64,865	91.7%
平均患者数 (病院のみ)	547.7	193.7	530.7	96.9%	193.2	99.8%	532.2	100.3%	177.7	92.0%
※診療日数 (病院)	265	365	260		366		244		365	

## 科別時間外患者取扱数

年 度	平成30年度		令和元年度				令和2年度			
	外来/入院	外来	入院	外来		入院		外来		入院
科	患者数	患者数	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比
内科	2,202	260	1,827	83.0	346	133.1	1,412	77.3	337	97.4
小児科	751	0	724	96.4	0	0.0	214	29.6	0	0.0
外科	179	33	251	140.2	57	172.7	251	100.0	64	112.3
整形外科	667	60	491	73.6	30	50.0	514	104.7	77	256.7
脳神経外科	393	160	467	118.8	177	110.6	393	84.2	183	103.4
皮膚科	281	1	207	73.7	0	0.0	258	124.6	4	—
泌尿器科	167	4	138	82.6	4	100.0	113	81.9	1	25.0
産婦人科	40	4	49	122.5	4	100.0	55	112.2	2	50.0
眼科	25	0	17	68.0	0	0.0	40	235.3	0	0.0
耳鼻 いんこう科	234	14	204	87.2	11	78.6	150	73.5	3	27.3
合 計	4,939	536	4,375	88.6	629	117.4	3,400	77.7	671	106.7

## 市町村別時間外患者取扱数

年 度	平成30年度		令和元年度				令和2年度			
	外来/入院	外来	入院	外来		入院		外来		入院
市町村	患者数	患者数	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比
美浜町	2,283	183	2,092	91.6	242	132.2	1,535	73.4	248	102.5
南知多町	1,769	289	1,440	81.4	316	109.3	1,184	82.2	323	102.2
武豊町	341	28	290	85.0	23	82.1	226	77.9	40	173.9
半田市	79	9	60	75.9	7	77.8	66	110.0	17	242.9
常滑市	70	9	60	85.7	9	100.0	74	123.3	17	188.9
その他	397	18	433	109.1	32	177.8	315	72.7	26	81.3
合 計	4,939	536	4,375	88.6	629	117.4	3,400	77.7	671	106.7

## 市町村別時間外患者（救急車搬入件数）

年 度	平成30年度		令和元年度				令和2年度			
	外来/入院	外来	入院	外来		入院		外来		入院
市町村	患者数	患者数	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比
美浜町	172	100	155	90.1	116	116.0	148	95.5	136	117.2
南知多町	193	171	161	83.4	172	100.6	177	109.9	205	119.2
その他	142	37	174	122.5	52	140.5	156	89.7	58	111.5
合 計	507	308	490	96.6	340	110.4	481	98.2	399	117.4

## 診療科別在院延べ患者数及び新入院患者数

	在院延患者数			新入院患者数		
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
内科	21,628	26,155	22,220	1,153	1,281	1,207
小児科	27	21	48	25	22	20
外科	5,270	5,733	5,918	314	383	391
整形外科	9,117	4,660	8,505	268	129	305
脳神経外科	13,009	15,049	17,179	432	528	548
皮膚科	2	8	1,112	1	1	91
泌尿器科	605	437	414	27	28	18
産婦人科	376	715	673	55	96	94
眼科	589	894	894	222	349	236
耳鼻いんこう科	587	487	187	62	45	13
一般計	51,210	54,159	57,150	2,559	2,862	2,923
療養	16,832	16,901	3,570	30	31	7
感染	0	86	1,117	0	11	119
合計	68,042	71,146	61,837	2,589	2,904	3,049

## 診療科別退院患者数及び平均在院日数

	退院患者数			平均在院日数		
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
内科	1,149	1,241	1,182	18.8	18.7	18.6
小児科	25	22	20	1.1	1.0	2.4
外科	321	394	405	16.6	14.4	14.9
整形外科	280	147	295	33.3	33.8	28.4
脳神経外科	407	481	540	31.0	25.2	31.6
皮膚科	1	1	84	2.0	8.0	12.7
泌尿器科	26	28	21	22.8	14.6	21.2
産婦人科	55	92	99	6.8	7.6	7.0
眼科	222	348	236	2.7	2.6	3.8
耳鼻いんこう科	65	44	12	9.2	8.6	15.0
一般計	2,551	2,798	2,894	20.0	17.3	19.6
療養	92	92	28	275.9	202.5	204.0
感染	0	10	107	0.0	8.2	9.9
合計	2,643	2,900	3,029	26.0	23.4	20.3

# 診療科別医療実績

---

内科	18
小児科	21
外科	22
整形外科	25
脳神経外科	27
皮膚科	29
泌尿器科	31
産婦人科	32
眼科	34
耳鼻いんこう科	36
麻酔科	37

## ■ 内 科

### 1. 医師紹介

氏 名	役職・専門分野	医師免許取得
宮本 忠壽	名誉院長 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本消化器病学会専門医・指導医 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医 日本消化管学会胃腸科認定医 日本医師会認定産業医 日本消化器病学会東海支部評議員 日本消化器内視鏡学会東海支部評議員	昭和 52 年
高橋 佳嗣	副院長兼感染制御部長兼内科代表部長 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本消化器病学会専門医 日本肝臓学会専門医	昭和 62 年
丹村 敏則	副院長兼保健事業部長兼内分泌代謝科部長 日本内科学会認定総合内科専門医・指導医 日本糖尿病学会専門医・指導医 日本東洋医学会専門医・指導医 産業衛生学会専門医・指導医 日本プライマリケア連合学会認定医 日本人間ドック学会認定医・指導医 日本病態栄養学会 NST コーディネーター 労働衛生コンサルタント	昭和 57 年
冨本 茂裕	第 2 診療部長兼循環器内科部長 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本循環器学会専門医 日本高血圧学会指導医	平成 2 年
川口 博之	一般内科部長	昭和 62 年
三宅 建作	救急外来部長 ※令和 2 年 12 月退職	平成 10 年

藤岡 一敏	消化器内科医長 日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医	平成 23 年
山田 修司	循環器内科医長 日本循環器学会専門医	平成 23 年
杉原 守	一般内科	平成 29 年
山田 一貴	一般内科 ※令和 2 年 9 月退職	平成 30 年
植田 隆寛	一般内科 ※令和 2 年 9 月退職	平成 30 年

## 2. 専門外来・主な取り組み

脳神経内科（月・火曜日）、循環器内科・血液内科（火曜日）、膠原病内科（水曜日）  
呼吸器内科（木曜日）、糖尿病内科（木・金曜日）  
消化器・肝臓病（第 1・3 金曜日）、ペースメーカークリニック（第 2・4 月曜日）

## 3. 診療実績

（単位：人、日）

		平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度
外来	延べ患者数	43,422	39,733	40,067
	一日平均患者数	164.0	152.8	164.2
入院	延べ患者数	23,871	27,538	28,306
	一日平均患者数	65.4	75.2	67.5
	平均在院日数	18.8	18.7	17.3

## 4. 令和2年度クリニカルインディケーター（DPCデータより）

## (1)入院症例トップ3

傷病名	患者数
小腸大腸の良性疾患（良性腫瘍を含む）	181
心不全	133
肺炎等	111

## (2)手術症例トップ3

傷病名	患者数
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術(長径 2cm 未満)	188
内視鏡的胆道ステント留置術	21
内視鏡的乳頭切開術(乳頭括約筋切開のみ)	14



## ■ 小児科

### 1. 医師紹介

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
安井 奈津子	小児科部長 日本小児科学会専門医 日本アレルギー学会専門医 日本周産期新生児医学会新生児蘇生法 「専門」コース（Aコース）修了 小児科全般・アレルギー疾患	平成 20 年

### 2. 専門外来・主な取り組み

- ・慢性疾患（喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、低身長、甲状腺疾患、夜尿症、てんかんなど）：月曜午後、木曜午後
- ・乳児健診：水曜午後
- ・1ヶ月健診：水曜午後
- ・予防接種：火曜午後・金曜午後

### 3. 診療実績

（単位：人、日）

		平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度
外来	延べ患者数	9,207	8,806	5,305
	一日平均患者数	34.7	33.8	21.7
入院	延べ患者数	52	43	68
	一日平均患者数	0.1	0.1	0.2
	平均在院日数	1.1	1.0	2.4

### 4. 令和 2 年度クリニカルインディケータ（DPC データより）

#### (1) 入院症例トップ 3

傷病名	患者数
妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害	12
食物アレルギー	7
下垂体機能低下症	1

## ■ 外科

### 1. 医師紹介

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
村元 雅之	副院長 兼 第1診療部長 兼 外科代表部長 日本外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会専門医・指導医 消化器がん外科治療認定医 日本消化器病学会専門医・指導医 日本静脈経腸栄養学会認定医・評議員 愛知臨床外科学会評議員	昭和61年
保里 恵一	第1乳腺外科部長 兼 篠島診療所長 日本外科学会専門医 日本乳癌学会専門医 日本消化器外科学会専門医・指導医 消化器がん外科治療認定医 日本消化器病学会専門医 日本肝臓学会専門医 マンモグラフィ読影認定医 日本化学療法学会評議員 日本医師会産業医	昭和56年
杉戸 伸好	中央手術部長 日本外科学会専門医 日本消化器外科学会専門医 消化器がん外科治療認定医 日本消化管学会胃腸科専門医・指導医 日本がん治療認定医	平成10年
川瀬 麻衣	第2乳腺外科部長 日本乳癌学会専門医 日本外科学会専門医	平成16年
傳田 悠貴	日本外科学会専門医	平成24年

## 2. 専門外来・主な取り組み

乳腺専門外来	栄養サポート外来	褥瘡外来	血管外科
腹腔鏡手術	内痔核手術	化学療法	

## 3. 診療実績

## (1) 基本指標

(単位：人、日)

		平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度
外来	延べ患者数	7,408	7,755	7,699
	一日平均患者数	28.0	29.8	31.6
入院	延べ患者数	5,598	6,129	6,324
	一日平均患者数	15.3	16.7	17.3
	平均在院日数	16.6	14.4	14.6

## 4. 令和 2 年度クリニカルインディケータ（DPC データより）

## (1) 入院症例トップ 3

傷病名	患者数
乳房の悪性腫瘍	65
鼠径ヘルニア	42
結腸（虫垂を含む）の悪性腫瘍	38

## (2) 手術症例トップ 3

傷病名	患者数
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術	36
腹腔鏡下胆嚢摘出術	28
乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術・筋膜切除を併施しない）	14

## 5. その他

## (1) 手術件数

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
全手術件数	293	300	253	266	252
全身麻酔	210	229	191	174	188
腹腔鏡下胆嚢摘出術	38	32	43	33	26
大腸癌 (うち腹腔鏡下手術)	43 (32)	35 (30)	27 (18)	26 (22)	25 (18)
乳癌手術	23	20	13	20	32
胃癌 (うち腹腔鏡下手術)	15 (2)	15 (3)	11 (3)	9 (3)	7 (3)
膵切除術	4	1	6	3	5
肝切除術 (うち腹腔鏡下手術)	5	12	8 (1)	1	3

## (2) 施設認定

- 平成14年1月～ 日本外科学会外科専門医制度修練施設 (指定施設)
- 平成15年～ 第1回日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働認定施設、教育施設
- 平成23年11月～ 日本静脈経腸栄養学会 NST 委員会 NST 稼働施設
- 平成24年1月～ 日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設 (認定施設)

## ■ 整形外科

### 1. 医師紹介

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
脇田 郷	副院長兼医療安全管理部長 日本整形外科学会専門医 日本リハビリテーション医学会認定臨床医 日本リウマチ財団登録医	昭和 56 年
山田 聡	整形外科代表部長 日本整形外科学会専門医 ※令和 2 年 7 月赴任	平成 5 年
岡本 康義	整形外科医長 日本整形外科学会専門医	平成 20 年
土井 孝信	リハビリテーション科医長 一般整形外科	平成 24 年

### 2. 専門外来・主な取り組み

- ・リウマチ科（毎週火曜日）

### 3. 診療実績

（単位：人、日）

		平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度
外来	延べ患者数	25,469	21,367	20,159
	一日平均患者数	96.1	82.1	82.6
入院	延べ患者数	9,396	4,807	8,801
	一日平均患者数	25.7	13.1	24.1
	平均在院日数	33.3	33.7	28.4
手術件数		234	149	258

## 4. 令和2年度クリニカルインディケータ（DPCデータより）

## (1) 入院症例トップ3

傷病名	患者数
股関節・大腿近位の骨折	81
胸椎、腰椎以下骨折損傷(胸・腰髄損傷を含む)	47
骨盤損傷	16

## (2) 手術症例トップ3

手術名	症例数
骨折観血的手術(肩甲骨、上腕、大腿)	45
人工骨頭挿入術(肩、股)	29
人工骨頭挿入術(前腕、下腿、手舟状骨)	25

## ■ 脳神経外科

### 1. 医師紹介

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
水野 志朗	院長 日本脳神経外科学会専門医 日本脳卒中学会専門医 脳神経血管内治療学会専門医	昭和 56 年
福島 庸行	診療協同部長兼脳神経外科代表部長 日本脳神経外科学会専門医 日本脳卒中学会専門医 認知症サポート医	昭和 60 年
中塚 雅雄	医療情報部長兼脳血管内治療部長 日本脳神経外科学会専門医 日本認知症学会専門医・指導医 日本脳卒中学会専門医・指導医 脳神経血管内治療学会専門医 認知症サポート医	平成 2 年
大島 望	脳神経外科医長 日本脳神経外科学会専門医 認知症サポート医	平成 20 年

### 2. 専門外来・主な取り組み

脳血管障害一般・神経外傷・認知症への対応

### 3. 診療実績

(単位：人、日)

		平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度
外来	延べ患者数	17,029	17,570	17,205
	一日平均患者数	64.3	67.5	70.5
入院	延べ患者数	15,885	15,568	17,720
	一日平均患者数	43.5	42.5	48.5
	平均在院日数	31.0	25.2	30.7
手術件数		41	59	43

## 4. 令和2年度クリニカルインディケーター（DPCデータより）

## (1) 入院症例トップ3

傷病名	患者数
脳梗塞	138
頭蓋・頭蓋内損傷	63
脳卒中の続発症	37

## (2) 手術症例トップ3

手術名	症例数
慢性硬膜下血腫洗浄・除去術(穿頭)、穿孔洗浄術	19
創傷処理・皮膚採取・骨格筋採取（筋肉、臓器に達しない、長径5cm未満）	12
創傷処理・皮膚採取・骨格筋採取（筋肉、臓器に達しない、長径5cm以上10cm未満）	10



## ■ 皮膚科

### 1. 医師紹介

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
松原 章宏	皮膚科医長 日本皮膚科学会専門医・指導医 緩和ケア研修会修了	平成 26 年

### 2. 専門外来・主な取り組み

- ・アトピー性皮膚炎、乾癬、掌蹠膿疱症、じんましん、天疱瘡・類天疱瘡、膠原病、皮膚良性・悪性腫瘍、皮膚潰瘍(褥瘡、熱傷も)、帯状疱疹、蜂窩織炎、多汗症(水道水によるイオントフォレーシス治療など)、円形脱毛症、男性型脱毛AGA〔自費治療：フィナステリド(ジェネリック薬)、ザガーロ®〕など
- ・光線治療に力を入れており、ナローバンドUVB、エキシマライトの2台にて、乾癬・アトピー性皮膚炎・掌蹠膿疱症、円形脱毛症などの治療を行っています。

### 3. 診療実績

(単位：人、日)

		平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度
外来	延べ患者数	7,227	6,269	12,322
	一日平均患者数	27.3	24.1	50.5
入院	延べ患者数	—	—	1,196
	一日平均患者数	—	—	3.3
	平均在院日数	—	—	18

### 4. 令和 2 年度クリニカルインディケーター (DPC データより)

#### (1) 入院症例トップ 3

傷病名	患者数
帯状疱疹	23
皮膚の悪性腫瘍(黒色腫以外)	16
膿皮症	14

## (2)手術症例トップ3

傷病名	患者数
皮膚悪性腫瘍切除術（単純切除）	18
皮膚切開術（長径 10 c m未満）	3
創傷処理・皮膚採取・骨格筋採取（筋肉、臓器に達しない、長径 5 c m未満）	2

## ■ 泌尿器科

### 1. 医師紹介

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
本間 秀樹	泌尿器科代表部長 日本泌尿器科学会専門医	平成1年

### 2. 専門外来・主な取り組み

- ・内視鏡手術の実施

### 3. 診療実績

(単位：人、日)

		平成30年度	令和元年度	令和2年度
外来	延べ患者数	7,702	7,391	7,028
	一日平均患者数	29.1	28.4	28.8
入院	延べ患者数	636	468	435
	一日平均患者数	1.7	1.2	1.2
	平均在院日数	22.6	14.6	21.2

### 4. 令和2年度クリニカルインディケータ（DPCデータより）

#### (1) 入院症例トップ3

傷病名	患者数
膀胱腫瘍	9
男性生殖器疾患	6
前立腺の悪性腫瘍	3

#### (2) 手術症例トップ3

手術名	症例数
膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）（その他）	6
膀胱結石（異物）摘出術（経尿道的手術）	1

## ■ 産婦人科

### 1. 医師紹介

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
菱田 克己	第1産婦人科部長 日本産婦人科学会専門医 母体保護法指定医 日本医師会認定産業医	昭和48年
柴田 金光	第2産婦人科部長 日本産婦人科学会専門医・指導医 母体保護法指定医	昭和53年
十河 千恵	産婦人科医長 日本産婦人科学会専門医 緩和ケア講習会修了 母体保護法指定医 新生児蘇生法Aコース修了	平成24年

### 2. 専門外来・主な取り組み

- ・産科
- ・婦人科（不妊症・更年期障害・子宮内膜症など）

### 3. 診療実績

（単位：人、日、件）

		平成30年度	令和元年度	令和2年度
外来	延べ患者数	4,609	4,580	4,484
	一日平均患者数	17.4	17.6	18.4
入院	延べ患者数	431	807	772
	一日平均患者数	1.2	2.2	2.1
	平均在院日数	6.8	7.6	7.0
分娩件数		55	43	47
手術件数		6	38	42

## 4. 令和2年度クリニカルインディケータ（DPCデータより）

## (1) 入院症例トップ3

傷病名	患者数
生殖器脱出症	11
胎児及び胎児付属物の異常	8
子宮の良性腫瘍	5

## (2) 手術症例トップ3

手術名	症例数
子宮脱手術（膈壁形成手術及び子宮全摘術）	10
子宮全摘術	9
子宮付属器腫瘍摘出術（両側）（開腹）	8

## ■ 眼科

### 1. 医師紹介

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
小原 浩	眼科部長 日本眼科学会専門医 ※令和2年6月退職	平成13年
加藤 房枝	第1眼科医長 日本眼科学会専門医	平成20年
塚田 明世	第2眼科医長 日本眼科学会専門医	平成22年
鈴木 克也	第3眼科医長 日本眼科学会専門医	平成23年

### 2. 専門外来・主な取り組み

- ・白内障手術

### 3. 診療実績

(単位：人、日)

		平成30年度	令和元年度	令和2年度
外来	延べ患者数	9,405	11,763	9,602
	一日平均患者数	35.5	45.2	39.4
入院	延べ患者数	811	1,243	1,130
	一日平均患者数	2.2	3.3	3.1
	平均在院日数	2.7	2.5	3.8
白内障手術件数		263	445	319

### 4. 令和2年度クリニカルインディケータ－ (DPC データより)

#### (1) 入院症例トップ3

傷病名	患者数
白内障、水晶体の疾患	199
黄斑、後極変性	14
網膜剥離	6

## (2) 手術症例トップ3

手術名	症例数
水晶体再建術(眼内レンズを挿入)(その他)	219
硝子体茎頭微鏡下離断術(網膜付着組織を含む)	22
硝子体切除術	4

## ■ 耳鼻いんこう科

### 1. 医師紹介

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
小森 克彦	耳鼻いんこう科代表部長 耳鼻いんこう科一般・頭頸部腫瘍・補聴器 日本耳鼻咽喉科学会専門医 日本耳鼻咽喉科学会補聴器相談医	平成5年

### 2. 専門外来・主な取り組み

慢性疾患外来（アレルギー性鼻炎・滲出性中耳炎など）： 火曜日・木曜日の午後  
難聴・補聴器外来： 火曜日・木曜日の午前

### 3. 診療実績

(単位：人、日)

		平成30年度	令和元年度	令和2年度
外来	延べ患者数	13,650	12,744	9,090
	一日平均患者数	51.5	49.0	37.3
入院	延べ患者数	813	533	199
	一日平均患者数	2.2	1.4	0.5
	平均在院日数	9.2	8.6	15.0

### 4. 令和2年度クリニカルインディケータ（DPCデータより）

#### (1) 入院症例トップ3

傷病名	患者数
前庭機能障害	5
睡眠時無呼吸	4
頭頸部悪性腫瘍	2

#### (2) 手術症例トップ3

手術名	症例数
喉頭・声帯ポリープ切除術（直達咽頭鏡、又はファイバースコープ）	1



## ■ 麻酔科

### 1. 医師紹介

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
成宮なつみ	麻酔科部長代理 日本麻酔科学会専門医	平成19年

### 2. 専門外来・主な取り組み

- ・麻酔科診察
- ・救急ファーストタッチ

### 3. 診療実績

(単位：件)

項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度
全身麻酔	318	339	312
脊椎麻酔	80	80	158
局部麻酔	504	664	606
合計	902	1,083	1,076

# 部署別業務実績

---

<b>【診療協同部】</b>	
・放射線技術科……………	39
・臨床検査技術科……………	44
・リハビリテーション技術科……	48
・臨床工学技術科……………	50
・栄養科……………	55
<b>【薬剤部】……………</b>	<b>57</b>
<b>【看護部】……………</b>	<b>59</b>
<b>【医療安全管理部】……………</b>	<b>65</b>
<b>【感染制御部】……………</b>	<b>67</b>
<b>【事務部】……………</b>	<b>70</b>
<b>【医療情報部】……………</b>	<b>76</b>
<b>【保健事業部】……………</b>	<b>77</b>
<b>【地域医療福祉連携部】……………</b>	<b>79</b>

## ■ 診療協同部 — 放射線技術科

### 1. 部署目標

- ・CT 検査件数増加による医療の充実
- ・新人教育体制の強化
- ・他部門との協力と連携
- ・次期中期計画への準備
- ・職場環境の改善

### 2. 活動内容と評価

#### (1) 「CT 検査件数増加による医療の充実」について

・胸部 X 線検査では小さかったり淡くしか映らないような病変の場合には見つけにくいことが多くあることから、CT 検査が早期発見には有効であると言われている。また CT 検査は点数も高く、病院経営の点から考えても CT 検査の件数が増加することは利点が多い。そこで健康管理支援センターでの低線量肺がん CT 検査や内臓脂肪測定 CT 検査の紹介を行うリーフレットを作成し、受診者への検査周知を行った。しかし新型コロナ感染症の影響をうけて、健康管理支援センターの業務が一時停止するなど件数は令和 2 年度の件数としては 244 件で対前年比としては 93.5%にとどまった。しかし医師増員などの影響もあり CT 検査全体としては 7,848 件で、対前年比では 101.5%と増加した。

#### (2) 「新人教育体制の強化」について

・4 月より新入職した診療放射線技師の指導に合わせて、マニュアル類や習得一覧表などを印刷して掲示した。これによって多くの技師が閲覧可能な状態となり、習得状況を容易に把握することが可能となった。掲示したところにより、マニュアルや一覧表についての意見も集めやすい状況にすることができた。これらの意見によって今後教育体制の更新を進めていくこととしている。また新入職の診療放射線技師も予定通りに業務を習得することが出来ている。

#### (3) 「他部門との協力と連携」について

・超音波検査を担当可能な技師が放射線技術科に在籍していたが令和 2 年度をもって退職され、同様に臨床検査技術科からも 1 名退職となった。検査対応可能な技師数が減少することになるため、診療放射線技師による超音波検査の研修を開始した。腹部超音波検査は経験がなかったため、臨床検査技術科のスタッフも含めて研修の協力を得たことで時間は要したが業務に入れるようになることができ、協力体制を構築しながら超音波検査に対応できている。

## (4) 「次期中期計画への準備」について

- ・来年度からはじまる第十六次中期計画の準備を開始し、事務ヒアリングにて概要の説明を行った。装置の更新は知多厚生病院にとって相応しい装置の選定という観点を、最も重視して検討を行った。特に初年度に更新を行う必要のある装置は具体的に装置の能力、撮影室への配置も含めた検討を行った。当院の検査や需要に沿った、選定を行うことが出来きており、順次整備を進めていく。

## (5) 「職場環境の改善」について

- ・スタッフルームや当直室の清掃を職員で実施するようになったため、一覧表を作成し清掃の記録までの習慣をつけるように取り組みを開始した。また定期的に片付けの周知を行い、環境整備の意識が高まるように取り組みを行った。これらによりスタッフルームなど清掃の習慣が身についてきているので、このまま継続して取り組みを行っていく。また有給休暇取得日数も最低取得日数はクリアできているが、より取得しやすい職場を目指して整備を行いたい。

## 3. 業務実績

## (1) 検査件数

## 令和2年度 放射線技術科 検査件数

## 全検査数

## 健診検査件数（再掲）

項目	令和2年度合計	令和元年度合計	前年度比較	項目	令和2年度合計	令和元年度合計	前年度比較
一般撮影	21,692	22,285	97.3%	胸部	2,717	2,908	93.4%
マンモ	1,561	1,620	96.4%	マンモ	860	939	91.6%
TV検査	3,032	3,212	94.4%	胃透視	1,131	1,172	96.5%
血管検査	93	136	68.4%	胃内視鏡	905	1,028	88.0%
CT検査	7,848	7,732	101.5%	CT検査	244	261	93.5%
MRI検査	4,920	4,884	100.7%	MRI検査	346	445	77.8%
骨塩定量	574	692	82.9%	骨塩定量	163	205	79.5%
画像処理	1,563	1,489	105.0%	合計	5,461	5,980	91.3%
術中透視	1	5	20.0%				
合計	41,284	42,055	98.2%				

健診合計件数には胃内視鏡件数は含まず

## 4. その他

## (1) 人員体制について（令和2年3月31日現在）

診療放射線技師	10名（女性3名、男性7名（1名は健診専属））
放射線（1Bブロック）看護師	4名
SPD（午前）	1名
受付事務員（1Bブロック）	2名（午後1名）

## (2) 画像診断関連機器一覧 令和2年度

撮影室	室番号	装置名(用途)	機種名	メーカー	取得年月日
一般撮影室 6	6	撮影装置	UD150L-40(50KW)	島津	2009/7/30
		画像処理装置	Console Advance	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C77 (SE1:立位)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C77 (SE2:臥位)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C47 (SE7:半切)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C12 (SE10:四つ切)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		CR読取装置	FCR PRIMA(カセットリーダー)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD用充電スタンド	ドッキングスタンド	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD用充電スタンド	ドッキングスタンド	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		撮影室内用画像表示端末	i-Pad mini	オリオンラボセーフメディカル	2018/10/15
一般撮影室 7	7	撮影装置	UD150L-40(50KW)	島津	2009/7/30
		画像処理装置	Console Advance	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C77 (SE3立位)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C77 (SE4:臥位)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C47 (SE8:半切)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C12 (SE11:四つ切)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD用充電スタンド	ドッキングスタンド	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD用充電スタンド	ドッキングスタンド	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		撮影室内用画像表示端末	i-Pad mini	オリオンラボセーフメディカル	2018/10/15
マンモ・ 骨塩定量 撮影室 8	8	撮影装置	MAMMOMAT1000	シーメンス	2009/7/30
		画像処理装置	Console Advance	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		CR読取装置	FCR PROPECT CS(カセットリーダー)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
	8	撮影装置	Dichroma Scan DCS-600EXV	日立アロカ	2009/7/30
健康管理支 援センター (胸部撮影)		撮影装置	RADIOTEX CH-200	島津	2009/7/30
		画像処理装置	Console Advance	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C77 (SE5)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		撮影室内用画像表示端末	i-Pad mini	オリオンラボセーフメディカル	2018/9/25
病棟用		回診型撮影装置	MobileDalt Evolution MX8VersionK	島津	2021/3/17
		FPD撮影装置	AeroDR 1717 FINE	コニカミノルタ	2021/3/17
		FPD用充電スタンド	AeroDR クレードル 2	コニカミノルタ	2021/3/17
手術室		回診型撮影装置	MobileDalt Evolution MX8VersionK	島津	2021/3/17
		FPD撮影装置	AeroDR 1717 FINE	コニカミノルタ	2021/3/17
		FPD用充電スタンド	AeroDR クレードル 2	コニカミノルタ	2021/3/17
		OPE用透視装置	SIREMOBIL Compact L	シーメンス	2007/8/10
TV室 2	2	撮影装置	ZEXIRA II Version (I.I.)	キャノン	2009/7/30
		撮影制御装置	ADR-1000A	キャノン	2009/7/30
TV室9	9	撮影装置	ZEXIRA FPD Version (F.P.D.)	キャノン	2009/7/30
		撮影制御装置	HDR-1000A	キャノン	2009/7/30

C T室	5	撮影装置	Aquillion Prime SP TSX-303B	キャノン	2019/5/7
		造影剤自動注入器	Dual Shot GX7	根本杏林堂	2019/5/7
		ワークステーション	ZIOSTATION2 TypeH	アミン	2019/5/7
		ワークステーション	ZIOSTATION2Classic	アミン	2012/7/21
		テラステーション	terastation Pro	バッファロー	2009/7/7
		Xe-CT測定装置	コールドキセノンガス吸入装置 AZ-725N	安西	1996/11/10
		回診型撮影装置	MobileArtEvolution	島津	2011/4/10 (新古車)
		画像処理装置	Console Advance (モバイルタイプ)	富士フィルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C77 (SE6)	富士フィルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C12 (SE12:四つ切)	富士フィルムメディカル	2018/10/15
		FPD用充電スタンド	ドッキングスタンド	富士フィルムメディカル	2018/10/15
		FPD用充電スタンド	ドッキングスタンド	富士フィルムメディカル	2018/10/15
MR I室	4	撮影装置	Ingenia1.5T	フィリップス	2015/9/25
		ワークステーション	バーチャルプレイス風神 RM-01123791	A Z E	2015/9/25
		生体情報モニタ	Invivo Essentil	コニカミノルタ	2015/9/25
血管撮影室	3	撮影装置	AXIOM Artis dTA	シーメンス	2009/7/30
		ポリグラフ	RMC-4000M	日本光電	2008/8/4
		ワークステーション	LEONARDO	シーメンス	2009/7/30
一般撮影 操作室		film読み取り装置	AOC Scan1.5	アレイ	2017/3/21
		ドライイメージャー	DRY PIX EDGE	富士フィルムメディカル	2018/9/18
		画像検像装置	iRad-QA	インフォコム	2017/3/21
感染症病棟		回診型撮影装置	MobileArtEvolution	島津	2010/6/1
		画像処理装置	Console Advance (モバイルタイプ)	富士フィルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C47 (SE9:半切)	富士フィルムメディカル	2018/10/15
		FPD用充電スタンド	ドッキングスタンド	富士フィルムメディカル	2018/10/15
篠島診療所		診断用X線装置	エクシープロMパック	島津	2011/11/1
		画像処理装置	画像診断WS Unitea α	コニカミノルタ	2021/3/10
		FPD撮影装置	AeroDR 1317 Premium	コニカミノルタ	2021/3/10
		FPD用充電スタンド	AeroDR クレードル2	コニカミノルタ	2021/3/10
		診断用モニター	EV2456Bk	EIZO	2021/3/10

## ■ 診療協同部 — 臨床検査室

### 1. 部署目標

- ・業務改善による作業の効率化とコスト削減
- ・迅速、かつ精度の高い検査値の保証
- ・チーム医療への貢献
- ・医療安全の追求と、患者満足度の向上
- ・人材育成

### 2. 活動内容と評価

#### (1) 業務改善による作業の効率化とコスト削減について

- ・試薬コスト削減のため、メーカー変更や、件数の少ない検査項目の外注化、測定法の変更等によって大きな試薬費削減を達成できた。しかし昨年6月ごろから新型コロナ関連検査が始まり、高額な試薬キットや、医療材料を大量に消費したことから、当年の削減分を大きくこえる増額となったが、その分大きな収益増に繋がった。業務の効率化では一人2～3部署制が徐々に浸透し、忙しい部門へのサポート体制が自然に形作られるようになり、業務の効率を押し進めることができた。

#### (2) チーム医療への貢献について

- ・これまで行ってきた糖尿病療養指導をはじめ、NST、ICTなどのチーム医療活動に加えて、昨年度から加わったDST活動にも積極的に参加できた。

#### (3) 迅速、かつ精度の高い検査値の保証

- ・機器トラブルによる結果報告遅延を防ぐため、毎日の機器のメンテナンス表を充実させたが、分析装置の大半は10年をゆうに超えており、予期せぬ機器トラブルに見舞われる事態がしばしば発生している。機器の老朽化に対しては、継続的、かつ計画的な更新が必要であり、第十六次中期計画に向けた機器選定を進めているところである。

#### (4) 医療安全の追求と、患者満足度の向上

- ・事例報告とその対策の全体共有ができるだけ速やかに進むよう、医療安全部門のカンファレンスを随時開催とし、重要な事例への対応を迅速に進める体制を整えた。

#### (5) 人材育成の充実について

- ・新型コロナ感染のひろがりによって多くの学会や研修会、勉強会までもが中止やWeb開催となったことが影響して、学会等での発表や、勉強会への参加が低迷した。多くの資格取得試験も中止となり、昨年度は新たな資格取得者はなかった。



## 3. 業務実績

稼働件数		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		件数	前年対比	件数	前年対比	件数	前年対比
一般検査	尿	38,744	98.4	37,712	97.3	35,087	93.0
	便	4,424	104.3	4,625	104.5	4,404	95.2
	体液	429	87.9	535	124.7	408	76.3
血液検査	血液	111,052	94.0	106,244	95.7	106,442	100.2
輸血検査	輸血	2,453	90.3	2,505	102.1	2,768	110.5
臨床化学	化学1	809,202	94.3	796,342	98.4	795,189	99.9
	化学2	33,489	100.0	33,799	100.9	33,785	100.0
	血液ガス	588	78.0	704	119.7	985	139.9
	負荷試験	9	33.3	9	100.0	9	100.0
微生物検査	一般細菌	9,873	87.8	10,416	105.5	8,119	77.9
	微生物核酸検査	0	—	0	—	1,358	—
	その他	743	105.8	700	94.2	817	116.7
免疫検査	免疫	50,485	92.6	50,465	100.0	50,622	100.3
病理	病理組織	1,327	76.9	1,455	109.6	1,561	107.3
	細胞診	2,813	95.2	2,799	99.5	2,673	95.5
生理検査	肺機能	4,092	101.3	4,236	103.5	3,129	73.9
	心電図	8,590	94.8	9,232	107.5	8,920	96.6
	超音波	4,889	93.5	4,902	100.3	4,885	99.7
	脳波	127	87.0	166	130.7	145	87.3
	その他	3,750	100.4	3,962	105.7	3,450	87.1
その他	病理解剖	0	—	2	—	0	—
	採血	29,025	93.1	28,126	96.9	27,761	98.7
	輸血製剤管理	1,010	85.7	864	85.5	956	110.6
	その他(DM指導等)	265	127.4	75	28.3	73	97.3
		1,117,379	94.4	1,099,875	98.4	1,093,546	99.4

稼働点数		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		点数	前年対比	点数	前年対比	点数	前年対比
一般検査	尿	1,385,359	98.2	1,360,121	98.2	1,197,055	88.0
	便	165,907	103.9	173,825	104.8	165,179	95.0
	体液	6,062	86.4	9,015	148.7	6,027	66.9
血液検査	血液	2,807,192	94.0	2,696,696	96.1	2,797,264	103.7
輸血検査	輸血	140,809	100.0	137,055	97.3	145,274	106.0
臨床化学	化学1	10,334,978	92.9	10,079,189	97.5	10,029,170	99.5
	化学2	4,509,504	97.6	4,512,235	100.1	4,405,187	97.6
	血液ガス	82,320	75.8	98,560	119.7	136,915	138.9
	負荷試験	1,800	33.3	1,800	100.0	1,800	100.0
微生物検査	一般細菌	1,105,082	85.0	1,189,944	107.7	881,267	74.1
	微生物核酸検査	0	—	0	—	1,832,360	—
	その他	0	—	0	—	0	—
免疫検査	免疫	2,828,538	92.9	2,762,659	97.7	3,889,372	140.8
病理	病理組織	1,377,540	77.7	1,498,270	108.8	1,627,800	108.6
	細胞診	450,670	94.9	453,310	100.6	413,574	91.2
生理検査	肺機能	388,740	101.3	403,980	103.9	299,220	74.1
	心電図	1,416,950	97.4	1,414,220	99.8	1,420,560	100.4
	超音波	2,350,160	93.4	2,395,540	101.9	2,405,350	100.4
	脳波	116,186	112.0	139,438	120.0	123,290	88.4
	その他	599,490	99.1	687,400	114.7	563,260	81.9
その他	病理解剖	0	—	50,000	—	0	—
	採血	870,750	111.8	782,610	89.9	971,635	124.2
	輸血製剤管理	0	—	0	—	0	—
	その他(CGМ)	138,600	154.7	28,700	20.7	21,700	75.6
稼働点数合計		31,076,637	93.9	30,874,567	99.3	33,333,259	108.0

判断料 件数		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		件数	前年対比	件数	前年対比	件数	前年対比
検査判断料	尿・糞便等検査	10,008	98.4	9,843	98.4	9,228	93.8
	血液学的検査	28,864	93.7	28,105	97.4	28,095	100.0
	生化学的検査（Ⅰ）	28,660	93.9	27,910	97.4	27,978	100.2
	生化学的検査（Ⅱ）	10,110	96.0	9,691	95.9	9,664	99.7
	免疫学的検査	15,147	93.4	14,371	94.9	14,493	100.8
	微生物学的検査	2,320	63.7	2,247	96.9	3,339	148.6
	病理学的検査	997	96.1	915	91.8	918	100.3
	呼吸機能検査	305	96.2	356	116.7	407	114.3
	脳波検査	87	94.6	98	112.6	58	59.2
神経・筋検査	34	65.4	30	88.2	30	100.0	
検査判断総件数		96,532	93.4	93,566	96.9	94,210	100.7

その他加算 件数		平成30年度		令和年度		令和2年度	
		件数	前年対比	件数	前年対比	件数	前年対比
病理診断料		1,163	91.8	1,199	103.1	1,325	110.5
細胞診診断料		499	99.0	561	112.4	604	107.7
検体検査管理加算Ⅰ		36,815	92.6	35,321	95.9	32,918	93.2
検体検査管理加算Ⅱ		328	104.5	317	96.6	348	109.8
パルスドプラ法加算		101	75.9	171	169.3	194	113.5
乳幼児加算		90	104.7	85	94.4	82	96.5
時間外緊急院内検査加算		1,724	104.2	1,465	85.0	913	62.3
生化学入院時初回加算		152	126.7	182	119.7	390	214.3
外来迅速加算		34,496	97.8	34,033	98.7	33,534	98.5
輸血管理料Ⅰ		223	79.9	200	89.7	199	99.5
輸血適正使用加算Ⅰ		223	79.9	200	89.7	199	99.5
合計 件数		75,814	95.2	73,734	97.3	70,706	95.9

判断料 点数		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		点数	前年対比	点数	前年対比	点数	前年対比
検査判断料	尿・糞便等検査	340,272	98.4	334,662	98.4	313,752	93.8
	血液学的検査	3,608,000	93.7	3,513,125	97.4	3,511,875	100.0
	生化学的検査（Ⅰ）	4,127,040	93.9	4,019,040	97.4	4,028,832	100.2
	生化学的検査（Ⅱ）	1,455,840	96.0	1,395,504	95.9	1,391,616	99.7
	免疫学的検査	2,181,168	93.4	2,069,424	94.9	2,086,992	100.8
	微生物学的検査	348,000	63.7	337,050	96.9	500,850	148.6
	病理学的検査	149,550	96.1	137,250	91.8	137,700	100.3
	呼吸機能検査	42,700	96.2	49,840	116.7	56,980	114.3
	脳波検査	15,660	94.6	17,640	112.6	10,440	59.2
	神経・筋検査	6,120	65.4	5,400	88.2	5,400	100.0
検査判断総点数		12,274,350	92.9	11,878,935	96.8	12,044,437	101.4

その他加算 点数	平成30年度		令和元年度		令和元年度	
	点数	前年対比	点数	前年対比	点数	前年対比
病理診断料	523,350	91.8	539,550	103.1	596,250	110.5
細胞診診断料	99,800	99.0	112,200	112.4	120,800	107.7
検体検査管理加算Ⅰ	1,472,600	92.6	1,412,840	95.9	1,316,720	93.2
検体検査管理加算Ⅱ	32,800	104.5	31,700	96.6	34,800	109.8
パルスドプラ法加算	20,200	75.9	34,200	169.3	38,800	113.5
乳幼児加算	2,250	186.9	2,125	94.4	2,050	96.5
時間外緊急院内検査加算	344,800	104.2	293,000	85.0	182,600	62.3
生化学入院時初回加算	3,040	126.7	3,640	119.7	7,800	214.3
外来迅速加算	1,496,640	97.7	1,359,340	90.8	1,475,270	108.5
輸血管理料Ⅱ	49,060	79.9	44,000	89.7	43,780	99.5
輸血適正使用加算	26,760	79.9	24,000	89.7	23,880	99.5
合計 点数	4,071,300	95.1	3,856,595	94.7	3,842,750	99.6

検査委託		平成30年度		令和元年度		令和元年度	
		件数	前年対比	件数	前年対比	件数	前年対比
委託件数	保険収載件数	15,072	84.1	14,018	93.0	15,760	112.4
	未保険収載件数	503	63.5	480	95.4	725	151.0
	管理料件数	0	—	236	—	189	—
総件数		15,575	83.2	14,734	94.6	16,674	113.2
委託支払額	保険項目支払小計	15,164,245	92.5	14,565,148	96.0	15,920,719	109.3
	未保険項目支払計	1,184,693	53.0	1,557,115	131.4	1,930,125	124.0
	管理料支払計	0	—	232,958	—	180,173	—
総支払い額		16,348,938	87.7	16,355,221	100.0	18,031,017	110.2
委託検査収入	総保険点数請求額	32,417,680	85.7	30,202,290	93.2	33,135,380	109.7
	利益差	16,068,742	83.8	13,847,069	86.2	15,104,363	109.1
消費額	薬品費	62,249,580	91.4	57,095,341	91.7	66,305,369	116.1
	医療材料費	5,772,689	107.1	3,568,383	61.8	5,560,218	155.8
薬品費材料費合計		68,022,269	92.5	60,663,724	89.2	71,865,587	118.5

## 令和2年度まとめ

令和2年度は6月ごろから始まった新型コロナウイルス感染症検査への対応のため、複数の検査機器の導入や、多くの医療材料の購入のため薬品費、医療材料費あわせて1,100万円以上の増額となったが、診療報酬ではコロナ遺伝子検査（微生物核酸検査）で2,000万円弱、抗原検査（免疫検査）等では1,000万円強の増収に繋がった。

一方、新型コロナウイルス感染症の蔓延によって、健診や生理検査のなかでも特に感染リスクの高いと思われる肺機能検査件数の減少が目立った。

また例年冬場に流行するインフルエンザの発生がほとんどみられず、免疫検査件数は減少したが、発熱外来の新型コロナウイルス抗原検査依頼件数がこれを大きく上回った。

## ■ 診療協同部 — リハビリテーション技術科

### 1. 部署目標

- ・効率的なリハビリ提供体制
- ・適正な記録管理
- ・「働き方改革」関連の指導遵守

### 2. 活動内容と評価

令和2年度の知多厚生病院の事業計画における基本方針の中で、「限られた病床資源を有効活用する。当院で働きたいと思えるような風土づくり」と掲げられており、リハビリテーション技術科においても病院方針に添い、上記部署目標を立てて活動を行った。

#### (1) 効率的なリハビリ提供体制について

- ・科内チームを3チーム制に変更し、地域包括ケア病棟施設基準遵守及び入院早期より必要な患者さんにリハビリ提供を行った。外来、訪問、通所リハに対してはリハビリ実施の制限を行い対応したため、今後の科内検討事項である。

#### (2) 適正な記録管理について

- ・開始、終了サマリの記入、各科でのカンファレンス記入を適切に行う為、参加者の選定、記入様式の改善を行った。

#### (3) 「働き方改革」関連の指導遵守について

- ・長時間労働解消の為に、リハビリ提供体制の変更や記録管理を改善し、生産性は向上したが、時間外勤務は是正が不十分であった。今後も引き続き改善するように努める。

## 3. リハビリテーション技術科 業務実績

実施単位数	外来	8,890	単位	理学療法	作業療法	言語聴覚療法	
	前年	10,891			4,308	3,566	1,016
	対前年比	82%			5,344	3,211	2,336
	入院	78,948	単位	42,624	28,939	7,385	
	前年	77,866			44,046	26,755	7,065
	対前年比	101%			97%	108%	105%
	摂食機能療法	37	回	0.00	0.00	37	
	前年	1,180			0.00	0.00	1,180
	対前年比	3%					3%
	計	87,875	単位	46,932	32,505	8,438	
前年	89,937			49,390	29,966	10,581	
対前年比	98%			95%	108%	80%	

患者数 と 実施単位数	外来	新患者数	延べ患者数	総単位数	実施単位/患者
	前年	446	6,884	8,890	1.29
	対前年比	370	7,313	9,848	1.35
	入院	1,532	46,815	78,948	1.69
	前年	1,531	42,949	78,750	1.83
	対前年比	100%	109%	100%	0.92
	計	1,978	53,699	87,838	1.64
	前年	1,901	50,262	88,598	1.76
対前年比	104%	107%	99%	0.93	

リハ料別	計	外来		理学療法	作業療法	言語聴覚療法
		入院				
脳血管	28,645	4,088	588	2,579	926	
		24,557	11,892	10,316	2,349	
廃用	18,658	18	18	0	0	
		18,640	10,694	6,663	1,283	
運動器	24,336	2,773	2,279	494	0	
		21,563	13,007	8,556	0	
呼吸器	7,546	20	20	0	0	
		7,526	4,291	2,750	1,951	
がんリハ	2,132	2,132	1,729	179	224	
介護（療養）	1,070	1,070	644	228	198	
摂食機能	37	37			37	
合計	83,895		45,162	31,765	6,968	

	理学療法	作業療法	言語聴覚療法
訪問リハ件数	1,165	468	51
前年実数	1,475	597	35

## ■ 診療協同部－臨床工学技術科

### 1. 部署目標

- ・医療機器の保守・点検・管理を計画的に実施し安全に医療機器が使用できる環境を整える。
- ・医療機器の安全使用に係る勉強会を適宜開催し、取り扱い方法・トラブル対応方法等の周知を行い医療機器使用時の不安軽減や安全の向上を図る。
- ・医療機器の稼働状況の把握及び医療材料の管理・運用方法を検討し、医療機器の適正台数・医療材料の適正在庫数・業務の効率化・コスト削減を図る。
- ・医師・看護師・他職種との連携を図り安全で円滑な医療支援を行う。
- ・部署内での臨床支援業務の勉強会を適宜開催し、知識・技術の向上を図る。

### 2. 活動内容と評価

#### 1) 医療機器の保守・点検・管理について

- ・臨床工学技士による定期点検実施医療機器は、麻酔器 1 台、除細動器 7 台、閉鎖式保育器 2 台、人工呼吸器（ニューポート e360）3 台、電気メス 13 台、TCI シリンジポンプ 2 台、小型シリンジポンプ 1 台、シリンジポンプ 351 25 台、輸液ポンプ 281A 30 台、輸液ポンプ 161S（安城更生病院より移設）11 台、低圧持続吸引器 8 台、経管経腸栄養ポンプ 15 台、テルモ自動血圧計 6 台、MRI 対応パルスオキシメータ 2 台であった。新型コロナウイルス感染症の影響で人工呼吸器の定期点検部品の供給に遅延が発生し一部年度を越えての定期点検実施となった。
- ・メーカー依頼定期点検実施医療機器は、閉鎖式保育器 1 台、人工呼吸器 2 台（内 1 台は点検待機中）、搬送用人工呼吸器 2 台、麻酔器 2 台、血液浄化装置 1 台、臨床用ポリグラフ 1 台であり、一部の医療機器に関して新型コロナウイルス感染症の影響等で定期点検遅延が発生してしまった。

#### 2) 医療機器の安全使用に係る勉強会の実施について

- ・医療機器の安全使用に係る勉強会は合計 35 回実施した。  
詳細については以下の通りである。

#### <臨床工学技士 講師勉強会> 合計 25 回

- ・経管経腸栄養ポンプ勉強会（対象：新規採用看護師）
- ・除細動器・AED 勉強会（対象：新規採用看護師）
- ・輸液ポンプ・シリンジポンプ勉強会（対象：新規採用看護師）
- ・ネーザルハイフロー勉強会（対象：3 階病棟看護師）×2 回
- ・閉鎖式保育器（デュアルインキュ i）勉強会（対象：2 階病棟看護師）×5 回
- ・閉鎖式保育器（V-2100G）勉強会×5 回

- ・輸液ポンプ/シリンジポンプ勉強会（対象：5階病棟看護師）×2回
- ・除細動器勉強会（対象：手術室・外来・3階病棟看護師）×6回
- ・麻酔器勉強会（対象：手術室看護師）
- ・人工呼吸器勉強会（対象：新規採用看護師）

＜新しい医療機器導入時の研修＞ 合計 10回

- ・人工呼吸器（ハミルトン C1）勉強会×8回
- ・血液浄化装置（TR-2020）勉強会
- ・ネーザルハイフロー（AIRV02）勉強会

### 3) 医療機器・医療材料について

- ・新規導入機器として麻酔器（ケアステーション 650S）：1台。
- ・新型コロナウイルス感染症対策（入院医療機関設備整備事業）により血液浄化装置（TR-2020）：1台、人工呼吸器（ハミルトン C1）：3台、ネーザルハイフロー（AIRV02）：3台、NPPV 専用人工呼吸器（V-60）：2台、ベッドサイドモニタ：10台、送信機：17台の導入を行った。
- ・医療情報室に協力していただき、2020年12月よりMEセンター中央管理医療機器の貸出/返却時の手書き（日付/部署名）運用からバーコード運用に変更となった。
- ・2021年1月より医療安全の観点より、生体情報モニタの時刻合わせを1回/6ヵ月から1回/1ヵ月と変更した。

### 4) 医師・看護師・他職種との連携を図った臨床支援業務について

- ・循環器関連では心臓カテーテル検査2件（前年対比 28.6%）、ペースメーカー植込み・交換10件（前年対比 166.6%）、体外式ペースメーカー1件（前年対比 100%）、ペースメーカーチェック（遠隔モニタリング含む）490件（前年対比 126.3%）を実施した。
- ・血液浄化療法関連では、持続緩徐式血液濾過透析（CHDF）2日間実施。エンドトキシン吸着2名の患者に対し合計4回施行。維持透析患者の血液透析実施は各0件であった。胸水腹水濾過濃縮再静注療法（CART）18件（前年対比 94.7%）であった。
- ・『腹水濾過濃縮再静注療法に関する同意書（説明書）』について内科医師と協議を行い作成を行った。

### 5) 部署内での勉強会を開催し、臨床工学技士の知識と技術の向上を図るについて

- ・新たな医療機器導入時に下記の医療機器についてメーカーに依頼し勉強会を実施した。
  - ①麻酔器（ケアステーション 650S）
  - ②人工呼吸器（ハミルトン C1）
  - ③血液浄化装置（TR-2020）
  - ④ネーザルハイフロー（AIRV02）

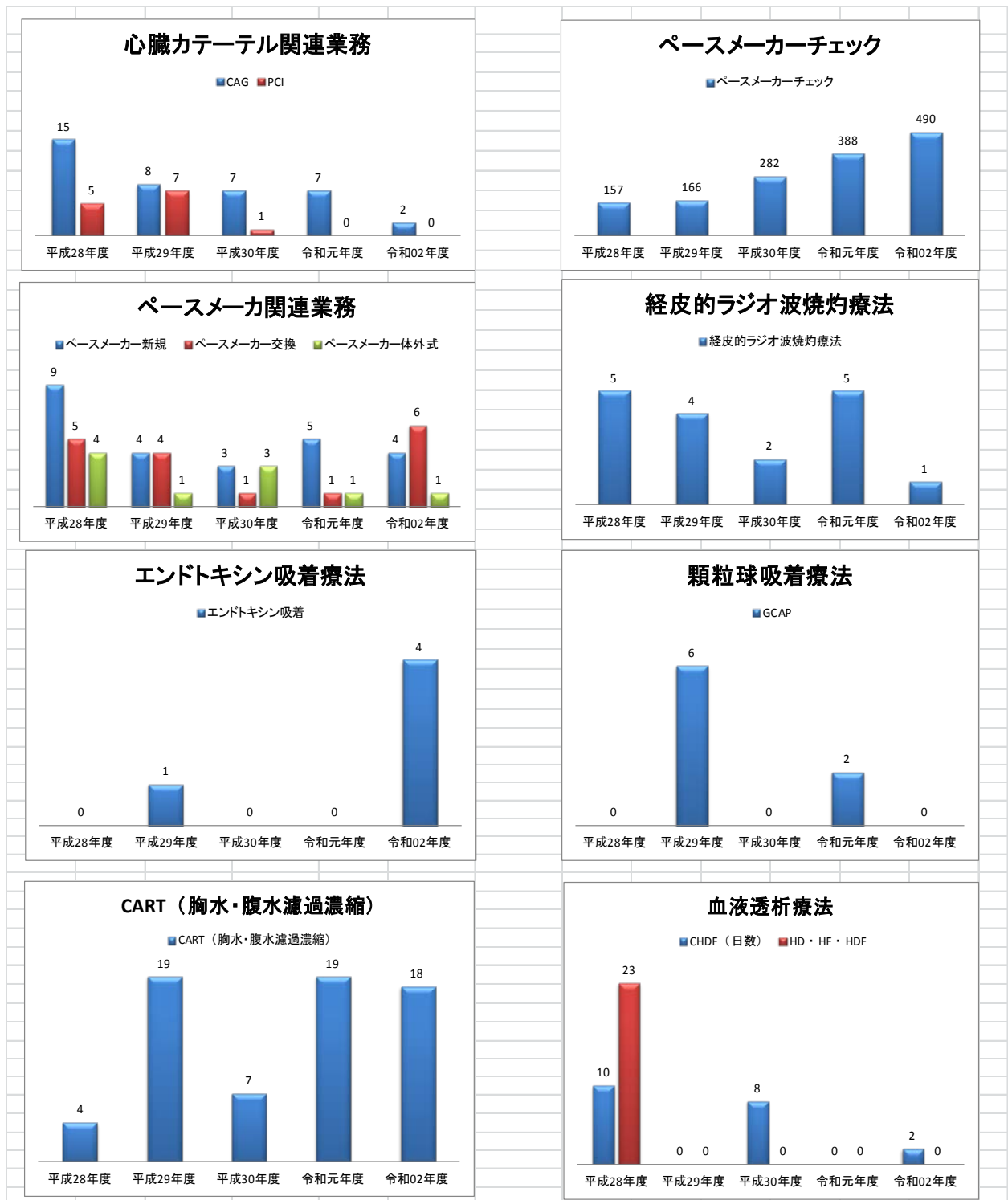
## 3. 業務実績

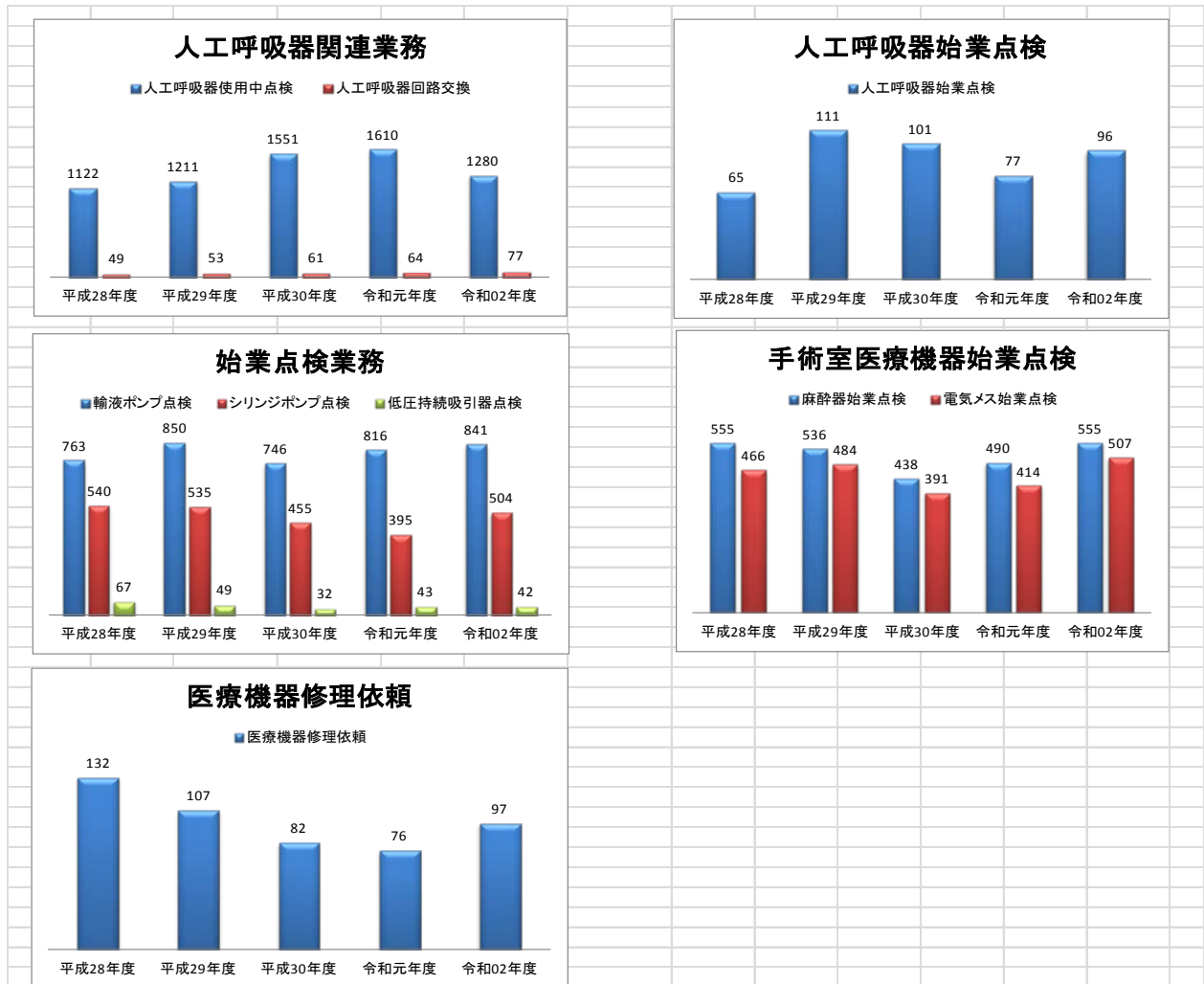
## 1) 臨床工学技術科 年度別業務件数 (平成 28 年度～令和 02 年度)

臨床工学技術科 年度別業務件数報告書					
<b>心臓カテーテル関連業務</b>					
業務分類	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和02年度
CAG	15	8	7	7	2
PCI	5	7	1	0	0
EPS	0	0	0	0	0
<b>ペースメーカー関連業務</b>					
業務分類	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和02年度
ペースメーカーチェック	157	166	282	388	490
ペースメーカー新規	9	4	3	5	4
ペースメーカー交換	5	4	1	1	6
ペースメーカー体外式	4	1	3	1	1
ペースメーカー生活指導	9	8	2	7	10
<b>血液浄化療法関連業務</b>					
業務分類	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和02年度
GCAP	0	6	0	2	0
エンドトキシン吸着	0	1	0	0	4
CART(胸水・腹水濾過濃縮)	4	19	7	19	18
CHDF(日数)	10	0	8	0	2
HD・HF・HDF	23	0	0	0	0
PE(血漿交換)	0	0	0	0	0
<b>手術協同関連業務</b>					
業務分類	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和02年度
経皮的ラジオ波焼灼療法	5	4	2	5	1
手術立ち会い	168	147	12	5	6
セルセーバー(自己血回収装置)	0	0	0	0	0
<b>人工呼吸器関連業務</b>					
業務分類	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和02年度
人工呼吸器使用中点検	1122	1211	1551	1610	1280
人工呼吸器回路交換	49	53	61	64	77
人工鼻フィルター交換	27	13	7	6	14
バクテリアフィルター交換	475	580	695	669	219
カテーテルマウント交換	159	203	264	291	227
NIPPV対応	8	6	1	0	0
CPAP説明	21	21	22	9	11
新規導入(NPPV含む)	45	64	54	30	49
<b>MEセンター関連業務</b>					
業務分類	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和02年度
麻酔器始業点検	555	536	438	490	555
電気メス始業点検	466	484	391	414	507
人工呼吸器始業点検	65	111	101	77	96
IABP点検	10	12	11	12	12
除細動器点検	81	82	83	83	85
閉鎖式保育器点検	28	34	30	30	40
AED点検	109	134	122	140	130
輸液ポンプ点検	763	850	746	816	841
シリンジポンプ点検	540	535	455	395	504
低圧持続吸引器点検	67	49	32	43	42
医療機器修理依頼	132	107	82	76	97
<b>緊急対応業務</b>					
業務分類	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和02年度
夜間・休日 対応	19	10	17	2	15



2) 臨床工学技術科 年度別業務件数グラフ (平成 28 年度～令和 02 年度)





## ■ 診療協同部－栄養科

### 1. 部署目標

- ・安全な食事の提供
- ・栄養指導件数の増加
- ・超過勤務の減少
- ・徹底したコスト管理
- ・非常時マニュアルの見直し

### 2. 活動内容と評価

#### (1) 安全な食事の提供

- ・HACCP に準じた衛生管理の義務化にむけ、衛生管理マニュアルの見直しを行った。手洗い、温度管理の重要性を理解し業務に取り組むことにより安全な食事の提供に努めた。
- ・誤配膳予防の為、盛付け・組込み・配膳時の確認を徹底したことにより前年度より発生件数が減少した。

#### (2) 栄養指導件数の増加

- ・年間を通して栄養指導件数の増加に努めたが、コロナウイルス感染症などの影響で増加に転じることができなかった。引き続き増加に努めていきたい。

#### (3) 超過勤務の減少

- ・業務内容を検討し厨房職員の超過勤務を前年度より減少させることができ、肉体的な負担が軽減された。

#### (4) 徹底したコスト管理

- ・消耗備品、電気高熱費などの費用削減にむけ、消耗品等の使用用途、使用量を検討。スタッフ間で経費削減に向け共通認識をもち業務に取り組んだ結果、減少させることができた。

#### (5) 非常時マニュアルの見直し

- ・緊急時にどのように給食業務を運営するかを明確にするための危機管理マニュアルを作成した。

## 3. 業務実績

## (1) 給食数

## 患者食

食 種	令和2年度		令和元年度	
	食 数	食 数	食 数	比 率 (%)
常 食	36,559	21.9	33,680	18.6
軟 食	59,320	35.5	70,225	38.7
流 動 食	299	0.2	310	0.2
特別食 A	49,192	29.5	46,502	25.6
特別食 B	21,583	12.9	30,717	16.9
合 計	166,953	100.0	181,434	100.0

## 賄食

食 種	令和2年度		令和元年度	
	食 数	比 率 (%)	食 数	比 率 (%)
職 員 食	44,314	99.9	47,316	99.7
付 添 食	27	0.1	157	0.3
合 計	44,341	100.0	47,473	100.0

## (2) 栄養指導件数

	栄養指導及び相談件数	食事指導料加算件数
外 来 栄 養 食 事 指 導	466	466
入 院 栄 養 食 事 指 導	253	253
糖 尿 病 透 析 予 防 指 導	504	504
そ の 他 の 栄 養 相 談	57	
保 健 指 導	53	
生 活 改 善 調 理 実 習	0	

## (3) 栄養マネジメント加算

栄養マネジメント加算 (件)	3,384
----------------	-------

## (4) 栄養マネジメント加算

栄養情報提供加算 (件)	20
--------------	----

## ■ 薬剤部

### 1. 部門目標

- ・ 診療機能の充実  
    診療支援機能の強化
- ・ 医療の質、安全強化  
    感染症対策の更なる質の向上
- ・ 経営管理  
    経営安定化の強化
- ・ 教育研修機能の充実

### 2. 活動内容と評価（主な取り組み）

#### （1）病棟における薬剤業務実施加算の継続と薬剤管理指導の充実を図る

薬剤業務実施加算については引き続き算定することができた。薬剤管理指導については、育児休暇明けで1名戻ってきたことと、病床再編により急性期病棟は3F、4Fのみとなったため、病棟薬剤師を集中させることが可能となり病床数は減少したものの、算定件数は大きく伸ばすことができた。来年度については、年度途中から産休・育休が1名発生することから、現状維持をしていくことが望まれる。

#### （2）ICT ラウンドの継続実施およびASTによる抗菌剤適正使用への継続的な介入

ICT ラウンドについては継続して実施することができた。年度を通じて新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応に追われた。

ASTによる抗菌剤適正使用への継続的な介入については、前年度を上回る算定をすることができた。今後も継続した取り組み強化が望まれる。

#### （3）業務記述書および棚卸手順書の整備と効率的な実地棚卸の実施

業務記述書および棚卸手順書の整備を図った結果、会計監査人監査についても指摘事項なくクリアすることができた。引き続き、適正な供給室業務と効率的な棚卸が実施できるように各部署の整理整頓および在庫管理の強化に努めていきたい。

#### （4）価格交渉による購入の効率化を図る

本部一括交渉を組み合わせた当院での粘り強い価格交渉により、前年度を上回る効率化を図ることができた。

来年度においても厳しい姿勢で価格交渉をし、より一層原価率を抑える取り組みが求められる。

#### （5）薬学部実務実習の受け入れによる人材育成

鈴鹿医療科学大1名の受け入れを行った。

今後とも積極的に受け入れていきたいと考える。

## 3. 業務実績（主な算定件数）

令和2年度	上半期（月平均）		下半期（月平均）		年度合計（月平均）	
薬剤情報提供料（手帳記載）	30,293	5,049	31,687	5,281	61,980	5,165
薬剤管理指導料（1・2を含む）	2,396	399	2,608	435	5,004	417
介護療養型医療施設（再掲）※	293	73	-	-	293	73
無菌製剤処理料（1・2を含む）	796	133	823	137	1,619	135
麻薬管理指導加算	165	28	222	37	387	32
退院時薬剤情報管理指導料	333	56	341	57	674	56
がん患者指導管理料 ハ	69	12	92	15	161	13

※4～7月にて終了

## 特記事項

薬剤部関連の算定金額は、上記以外の項目も含めて年度累計額として約1,000万円（前年度比:119%）の増加となった。

病床再編により効率的に算定できるようになったことが主な要因である。

## 4. 各種認定資格について（令和3年3月31日現在）

がん薬物療法認定薬剤師	（日本病院薬剤師会）
外来がん治療認定薬剤師	（日本臨床腫瘍薬学会）
病院薬学認定薬剤師	（日本病院薬剤師会）
生涯研修履修認定	（日本病院薬剤師会）
緩和薬物療法認定薬剤師	（日本緩和医療薬学会）
医療情報技師	（日本医療情報学会）
NST 専門療養士	（日本静脈経腸栄養学会）
認定褥瘡薬剤師	（日本褥瘡学会）
骨粗鬆症マネージャー	（日本骨粗鬆症学会）
糖尿病療養指導士	（日本糖尿病療養指導士認定機構）
糖尿病薬物療法准認定薬剤師	（日本くすりと糖尿病学会）
リウマチ財団登録薬剤師	（日本リウマチ財団）
認定実務実習指導薬剤師	（日本薬剤師研修センター）
研修認定薬剤師	（日本薬剤師研修センター）
日本 DMAT 隊員	（厚生労働省）

## ■ 看護部

### 1. 部門目標

- 1) 看護実践能力の向上に努め、安心安全な質の高い看護を提供する
- 2) 生き生きと働き続けることができる職場環境をつくる
- 3) 積極的に病院経営に参画する

### 2. 活動内容と評価 ( ) 昨年度

#### 1) 看護実践能力の向上に努め、安心安全な質の高い看護を提供する

##### (1) 対象ニーズを捉えた確かな看護の実践

##### (2) 看護実践能力を高めるための行動ができる

- ・意志決定支援は看護実践能力として求められ IC 同席は必要。急性期病棟 887 件＞地域包括 160 件＞外来 38 件。コロナ禍で家族の面会禁止もあり電話対応での家族説明、確認が多い状況であった。
- ・カンファレンスの実施は総合 5,121 件 (3,715 件) 退院支援 712 件 (450 件) 介護支援連携カンファレンス 64 件と増加。ACP 関わりは 4 件、委員会の情報を部署で共有すること、転棟・退院後の外来・訪問看護との連携は今後も課題。
- ・認知症・せんもう患者ケアは加算 2 算定 490 件 せん妄ハイリスクケア加算算定 566 件、看護の質向上、知識レベルをまず高める必要がある。次年度は院内デイケアを実施する。
- ・クリニカルラダー受審者 64 名、認定申請者 29 名 (45%) 認定者 (合格) 28 名 (97%) 事例等のまとめは上司の支援が得られていた。ラダー保有者は 164 名中 113 名、新人以外 I 25 人 (15.2%) II 53 人 (32.3%) III 35 人 (21.3%) レベル III 保有者は外来看護師が高い。経験値、実践力がある外来看護師が一元化勤務の協働は安全かつ看護の質担保に成ると考える。
- ・部署教育としてナーシングスキル活用は年々増加。アクセス件数=8,577 件 (4,616 年件) 1 人あたりを 4 月看護師正職で換算すると 27.8 回→52.3 回、外来が最も高かった。一元化により病棟支援の業務が増えたことと、外来の新人配置により技術チェックなどスキルを確認する機会が増えたため考える。
- ・事故防止は転棟転落、発生件数合計 233 件 (210 件) 発生率月平均 3.54% (2.94%) レベル 3b が 7 件 (4 件) 3b は全て転棟転落に関連した骨折。昨年同様に月平均 4F 病棟が 4.09% (3.62%) と高い状況は変わらず。高齢者の術後管理、認知機能の低下、せん妄ケアは課題であるが OPE 件数・看護必要度の増加および看護師人員の減少も要因の 1 つと考えるため看護師確保が重要。誤薬発生件数合計 83 件 (132 件) 発生率は月平均 0.55% (1.16%) で全体は低下。
- ・DINQL データ活用は、データベース入力遅れもあり、タイムリーな活用に至らず。今後は医療安全のデータとリンクさせ有効活用する。

## (3) チーム医療を推進し患者の生活を支援する

- ・ 部署問題の改善にむけ企画・改善書の作成は定着。主な改善内容は時間管理マネジメント（PC アラーム設定による意識化）有休取得（労務管理状況・公平化）病棟外来一元化（基準・運用作成）DAY-PNS（問題共有と改善・新人指導）。特にコロナ関連の運用は臨機応変に優先すべき業務や連携、周知はできた。

## 2) 生き生きと働き続けることができる職場環境をつくる

## (1) 健康で安全な職場（ヘルシーワークプレイス）環境づくりに取り組む

- ・ ノー残業 5F：79 日＞外：12 日＞3F：6 日＞2F：2 日、術後患者を主に受ける外科系 4F と手術室は事前設定ができない状況にあった。
- ・ 時間外勤務の状況は 4F＞3F＞OPE＞外来＞2F＞5F の順で外科系 4F が全体の 28%を占めていた。職務満足度調査「時間外労働が多い」の回答は全体 59.3%、3F：97%、4F：91.2%と高く次いで 5F：64%、2F：42.9%、OPE 室：18.2%、外来：15.4%。部署の業務量格差は全て解消できないが公平性が必要であり病棟外来一元化を実施する。
- ・ 年時給有給休暇 5 日は 100%取得。
- ・ 看護提供体制、DAY-PNS は急性期 2 病棟で実施、感染病床運用により様々な対応が必要で随時見直し修正を加え継続。
- ・ 病棟外来一元化は R3.2 月からは救急外来夜勤を病棟係長も実施。外来機能を知る機会となり救急医療の個の能力開発となる。R5.5 月以降、外来看護師はさらに一元化人員を増やすため、非常勤看護師が外来診療の実働を担うことが多くなる。

## (2) 離職防止に努め定着を推進する

## (3) 教育環境を再構築する

- ・ 離職率 12%で目標 10%は未達。
- ・ 新人看護師の面接、報告書（5 月・7 月・9 月）100%実施。夜勤開始後と新たな新人迎える 2 月フォロー面接はチーム編成で重要。教育担当者との連携強化を図る。

## 3) 積極的に病院経営に参画する。

## (1) 経営の安定化に向けた効率的な病床管理を行う

- ・ 入院基本料 7：1 と地域包括ケア入院料 1 は維持できた。  
看護部朝会に医事課が週 1 回参加、現状課題の確認共有を図ることで、ベッド状況に対する医師の協力依頼や発信ができるようになった。積極的なレスパイト入院の受け入れが地域連携と協働できた。

## (2) 5S 活動を推進し業務の改善を行う

- ・ 部署の業務改善は全 24 件。内容は申し送り、業務内容、PC 管理、検査、安全、ケア方法、物品配置など。看護部運営会議で企画・改善の報告共有を行った。



## 4. 令和2年度看護部研修

## (1) 新人看護師研修

月	日	曜日	時間	内容	講師	参加者人数	
						看護部	他部門
4	1	水		厚生連新採用者入職オリエンテーション	厚生連本部	13	
	2～3	木～金	8:30～17:00	病院オリエンテーション	教育研修委員会	13	
	6	月	8:30～17:00	看護部オリエンテーション	看護管理室	14	1
	7	火	8:30～17:00	部署オリエンテーション	部署長	12	
			10:00～11:00	看護倫理	看護部	12	
	8	水	9:00～12:00	標準予防策・清潔操作・針刺し防止	看護部	12	1
	9	木	9:00～10:30	経管栄養を受ける患者の看護	看護部	12	1
			10:30～12:00	食事援助・口腔ケア	看護部	12	1
	10	金	9:00～10:30	フィジカルアセスメント	看護部	12	
			10:30～12:00	心電図モニター・心電図、AED・DC	看護部	12	
13	月	9:00～11:00	当院の褥瘡対策 排泄ケアの実際	看護部	13	1	
		11:00～14:00	膀胱留置カテーテル	看護部	10	1	
14	火	9:00～10:30	医療安全対策	看護部	14		
		10:30～12:00	経口薬外用薬直腸内与薬	看護部	14		
17	金	15:00～17:00	演習:事例検討Q&A	看護部	13		
5	7	木	9:00～10:00	電子カルテ	看護部	13	
			10:00～14:00	静脈血採血(実践)点滴・皮下・筋肉・皮内注射	看護部	13	1
			14:00～15:30	輸液ポンプ・シリンジ	看護部	13	
	21	木	13:00～15:30	看護記録	看護部	13	
6	4	木	13:00～15:00	人工呼吸器取り扱い・BVM	ME	14	
			15:00～17:00	急変時対応・救急カート	看護部	14	
7	2	木	14:00～16:00	血管確保	看護部	14	
			16:00～17:00	振り返り	看護部	13	
8	20	木	15:00～17:00	安全安楽のケア・逝去時のケア	看護部	13	
9	30	水	16:00～17:00	振り返り	看護部	13	

月	日	曜日	時間	内容	講師	参加者人数	
						看護部	他部門
10	15	木	15:00～ 17:00	皮下・筋肉注射実践	看護部	13	
2	25	木	15:00～ 16:00	事例を通して看護の振り返り(発表)	看護部	10	
			16:00～ 17:00	振り返り	看護部	10	
合計						354	7

## (2) ラダーレベルⅠ研修

月	日	曜日	時間	研修名	講師	研修参加者
5	14	木	13:00～ 15:00	メンバーシップ	看護部	8
	28	木	13:00～ 15:00	意思決定支援	看護部	14
			15:00～ 17:00	チーム医療の構成員である看護師として果たすべき役割(オ)	看護部	14
6	9	火	10:00～ 17:00	薬剤の取り扱い	看護部	15
7	9	木	14:00～ 17:00	看護過程	看護部	15
9	3	木	13:00～ 15:00	日常看護提供場面で理解する看護の倫理綱領と看護業務基準(オ)	看護部	15
10	22	木	13:00～ 15:00	地域における自施設の役割	看護部	16
合計						97

## (3) ラダーレベルⅡ研修

月	日	曜日	時間	研修名	講師	研修参加者
6	18	木	10:00～ 12:00	医療安全対策	医療安全	6
			13:00～ 15:00	感染対策	感染制御	6
7	16	木	13:00～ 15:00	リーダーシップ	看護部	3
			15:00～ 17:00	人材育成	看護部	5
9	23	水	15:00～ 17:00	看護研究とは	外部講師	5
10	29	木	13:00～ 17:00	ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスとその理解(オ)	看護部	5
			15:00～ 17:00	地域包括ケアシステムを形成する施設・職種・制度(オ)	看護部	5
2	Web受講		1時間 配信	薬剤の取り扱い	医療安全	5
合計						40

## (4) ラダーレベルⅢ研修

月	日	曜日	時間	研修名	講師	研修参加者
6	25	木	13:00～ 15:00	人材育成	看護部	5
			15:00～ 17:00	アサーション	看護部	4
7	30	木	13:00～ 15:00	ケアの受け手の全体像把握のためのアセスメント統合(オ)	看護部	5
			15:00～ 17:00	急変の予測と救命救急場面の対応(オ)	看護部	4
8	6	木	13:00～ 15:00	コーチング	看護部	4
			15:00～ 17:00	ケアの改善のためのエビデンスの活用(オ)	看護部	5
	27	木	15:00～ 17:00	看護管理	看護部	4
9	17	木	13:00～ 15:00	ケアの受け手の意思決定における権利擁護(オ)	看護部	6
			15:00～ 17:00	看取りにおける尊厳の尊重と苦痛の緩和(オ)	看護部	6
10	8	木	15:00～ 17:00	自施設周辺の地域包括ケアシステムの理解(オ)	看護部	5
			15:00～ 17:00	協働におけるコンサルテーションと多職種カンファレンス(オ)	看護部	5
	15	木	15:00～ 17:00	看護研究方法/量的データ収集の考え方と具体的方法	外部講師	4
11	19	木	15:00～ 17:00	医療安全取り組み報告	医療安全	5
	25	水	15:00～ 17:00	看護研究方法/質的データ収集の考え方と具体的方法	外部講師	4
合計						66

## (5) ラダーレベルⅣ研修

月	日	曜日	時間	研修名	講師	研修参加者
6	30	火	13:00～ 15:00	ケアの受け手の自己決定を支える他職種の協働・連携(オ)	看護部	3
10	14	水	13:00～ 17:00	クリティーク	厚生連	3
12	15	火	13:00～ 17:00	看護管理	厚生連	3
合計						9

## (6) 他研修

月	日	曜日	時間	研修名	講師	研修参加者
4	30	木	16:30～ 17:30	新人教育担当者研修	看護部	11
6	5	金	17:30～ 18:30	重症度、医療看護必要度	看護部	63
7	30	木	17:15～ 18:15	看護クリパス学習会	医師	18
11	16・19	月・木	17:15～ 18:15	院内看護研究発表	外部講師	20・22
1	21	木	16:00～ 17:00	固定チーム学習会	看護部	23
3	1	月	16:00～ 17:00	臨地実習指導者研修	看護部	7
	30	火	15:00～ 15:30	看護補助者研修	看護部	6
					合計	170

## ■ 医療安全管理部

### 1. 部門目標

- ・多職種間の連携を強化し、医療安全対策の実施と評価を行う。
- ・医療安全報告の推進・共有・分析を行う。
- ・医療安全教育を実施し、職員の安全意識の向上を図る。
- ・地域の医療機関との連携を継続する。

### 2. 活動内容と評価

#### 1) 多職種間の連携を強化、医療安全対策の実施と評価

- ①医療安全対策委員巡視による医療安全対策実施後の評価、潜在リスクの把握  
毎月1回、担当者が巡視を行い結果と対策を医療安全対策委員会で共有し各部署に周知している。

#### 2) 医療安全報告の推進・共有・分析

#### 3) 医療安全報告書件数

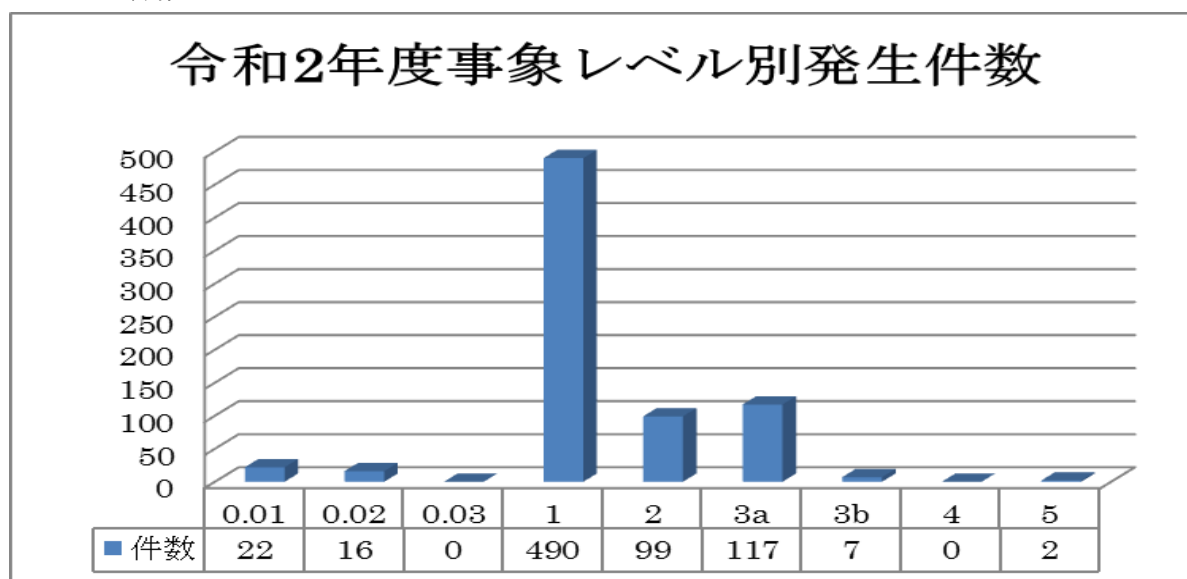
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R2年度	73	46	59	73	58	61	69	53	66	61	61	73	753
R元年度	75	57	69	92	63	70	82	89	74	74	61	82	888

- ①令和2年度の医療安全報告書は753件であり前年度と比較し135件減少した。

発生場面は、転倒転落237件で最も多く、次いで薬剤関連が156件であった。

- ②事例カンファレンス開催件数は64件、評価カンファレンスは18件開催し部署での取り組みを行っている。

レベル別件数



- ③医療事故の発生は前年度の6件から7件となった。

内容分類では転倒転落発生件数は増加しているが転倒転落による骨折の発症が7件中4件で昨年度に比較し増加している。

## 4) 医療安全教育と職員の安全意識の向上

①臨時研修 関節拘縮患者の対応 令和2年12月28日(月)～令和3年1月22日(金)  
実践研修+ビデオ視聴研修 参加者 175名

②後期医療安全全体研修：令和3年2月3日(水)～令和3年2月27日(金)  
参加者 379名

事例に学ぶ医療安全(当院における事例発表)・医薬品安全使用講習・医療機器安全使用講習

## 5) 地域医療機関との連携強化

①医療安全地域連携加算に伴う連携病院相互評価実施

医療安全対策加算Ⅰ病院：医療安全管理室長のみの紙面評価

医療安全対策加算Ⅱ病院：中止

②知多半島公立病院等5病院 医療安全担当者会議：中止

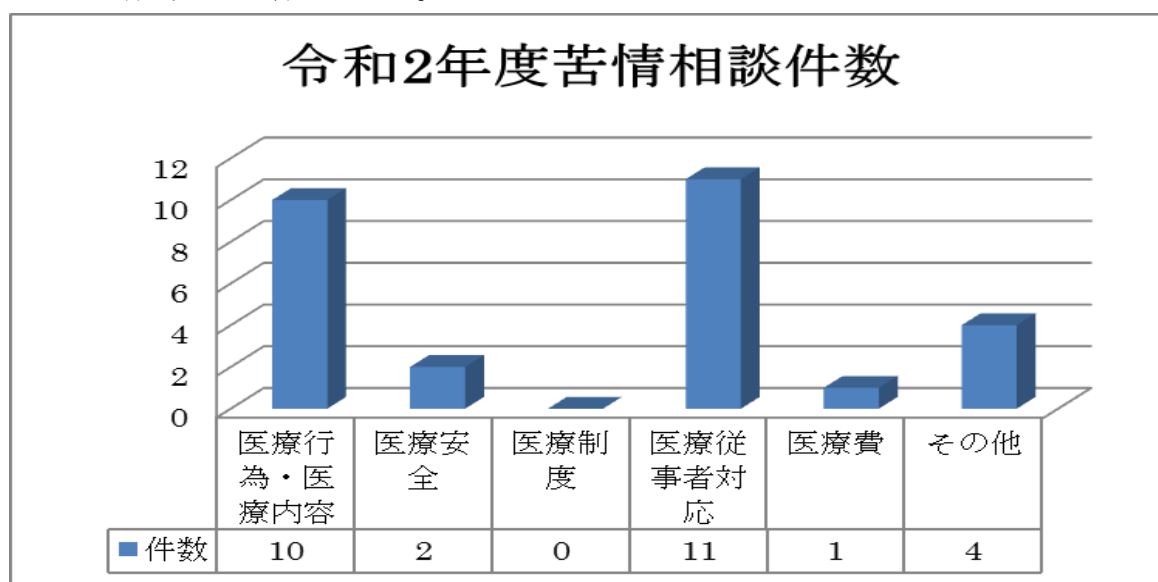
## 3. 業務実績

1) 医療安全対策加算Ⅰ ・ 医療安全地域連携加算取得

## 4. その他

1) 苦情・相談件数

令和年度の苦情相談件数は28件であった。その内、医療安全管理者による面談は6件、電話対応は5件であった。



2) 重大事故

医療事故調査制度の対象となる報告はなし

## ■ 感染制御部

### 1. 部門目標

- 1) 第二種感染症指定医療機関として知多半島医療圏で中心的役割を担う
- 2) 感染管理支援システムを活用した感染管理の実施

### 2. 活動内容と評価

- 1) 第二種感染症指定医療機関として知多半島医療圏で中心的役割を担うについて
  - ・ 関係機関・地域の医療機関との連携の強化として、知多半島医療圏感染対策連携会議、行政との会議に参加することで情報交換・情報共有を行うことができた。
  - ・ 相互ラウンドを通じて互いを客観的に評価・指摘できる関係を築くことができた。
  - ・ 感染防止対策の情報提供として、毎月の院内感染対策委員会で「愛知県感染症情報」「検疫感染症アップデート」「感染症エクспレス」を紹介することで国内外の感染症発生動向について情報提供を行うことができた。
  - ・ COVID-19 対策の整備として、受診者・来院者の経路整備、感染病棟の整備をすることができた。又、マニュアルの新規作成・修正を行うことができた。
  - ・ 患者や住民への啓発活動の実施として、高齢者施設や行政からの依頼を積極的に受けることができた。
- 2) 感染管理支援システムを活用した感染管理の実施について
  - ・ ICT チーム活動として、研修会の開催、耐性菌検出患者・医療器具使用者・環境のラウンドを行うことができた。又、手指消毒使用量・CV感染・SSI・細菌検査部門サーベイランスを実施した。
  - ・ 抗菌薬適正使用支援チーム（AST）活動として、特定抗菌薬使用者、有症者のモニタリングをすることができた。
  - ・ 薬品・物品の在庫管理として、入手困難な手指消毒薬、環境消毒薬、感染防止物品の確保に努めた。又、寄贈された感染防止物品の適切な配分に努めた。

### 3. 業務実績

#### ① 地域医療機関・行政との連携

<知多半島医療圏感染対策連携会議>

開催日	参加病院	議題
令和2年6月17日	知多厚生病院 公立西知多総合病院	AUD調査報告
令和2年9月16日	半田市立半田病院 常滑市民病院	乾性手指消毒剤払い出し状況
令和2年11月18日	石川病院 知多小嶋記念病院	耐性菌検出状況
令和3年 2月17日	杉石病院 みどりの風南知多病院 渡辺病院 国立長寿医療研究センター あいち小児保健医療総合センター 半田保健所長 知多保健所長	職種別カンファレンス

## &lt;連携カンファレンス&gt;

開催日	参加病院	内容
令和2年 7月16日	知多小嶋記念病院を訪問	院内ラウンド
令和2年 7月20日	知多小嶋記念病院が来院	院内ラウンド

## &lt;相互ラウンド&gt;

開催日	参加病院	内容
令和2年7月21日	公立西知多総合病院を訪問	感染防止対策地域連携加算
令和2年8月25日	公立西知多総合病院が来院	チェック項目表に沿ってラウンド

## &lt;行政との連携&gt;

開催日	施設	内容
令和2年6月18日	知多厚生病院 公立西知多総合病院 半田市立半田病院 常滑市民病院	新型コロナ入院医療機関の連携について
令和2年12月17日	半田保健所 知多保健所	年末年始のコロナ感染対策について
令和2年5月1日	知多南部消防組合	救急患者搬送について
令和2年6月23日	中部空港検疫所	搬送経路確認

## ② COVID-19 対策

日時	内容
令和2年7月15日～	面会制限から面会禁止へ変更 正面玄関で発熱者のトリアージ開始
令和2年6月24日	篠島診療所感染対策
令和2年11月16日～11月25日	感染病棟改装工事
令和3年1月25日～	全入院患者にコロナ抗原検査を実施
令和3年3月4日～3月9日	栄養科職員2名がコロナの陽性者、15名が休職となり厚生連の応援体制制度を利用するが陽性者の増加なく終息



## ③ 教育・啓発活動

日時	対象	内容
令和2年4月2日	当院入職者	感染対策について
令和2年4月8日	看護師教育ラダーⅠ	感染対策研修
令和2年6月1日～ 6月28日	全職員	コロナウイルス感染症について (eラーニング)
令和2年6月18日	看護師教育ラダーⅡ	感染対策研修
令和2年7月14日	大地の丘職員	感染対策について
令和2年7月15日	当院職員	当院の新型コロナ対策について
令和2年9月12日	知多郡医師会	新型コロナ感染症対策について
令和2年12月24日	JA愛知知多農協	新型コロナ感染症対策について施設訪問
令和2年12月24日～ 1月8日	全職員	おしえてドクター（動画視聴）
令和3年1月19日	美浜町役場 保健センター	新型コロナ感染症対策について施設訪問
令和3年1月19日	南知多町役場	新型コロナ感染症対策について施設訪問

## ④ サーベイランス・ラウンド

- ・ 日本看護協会 DiNQL に参画
- ・ JANIS の SSI、細菌検査部門に参画
- ・ 手指消毒薬使用量サーベイランスの実施
- ・ 環境ラウンドと手指消毒直接観察ラウンドの実施

## 4. その他

- ・ 季節性インフルエンザ・感染性胃腸炎については、入院患者のアウトブレイクはなかった。

## ■ 事務部

### 1. 部門目標

- ・ 目標回収額の確保
- ・ 病床再編検討と病棟運営の最適化
- ・ 地域包括ケアシステム構築と地域連携の強化
- ・ 各部門、他職種との連携強化
- ・ 業務の効率化と多様化による超過勤務削減と有給休暇取得
- ・ 新たな補助金の獲得

### 2. 企画課

#### (1) 活動内容と評価

##### 1) 病床再編検討と病棟運営の最適化

- ・ 令和2年8月に病床再編を行い病床の削減と療養病棟を廃止し、急性期病棟108床、地域包括ケア病棟85床（感染症病床6床）に再編した。
- ・ 病院全体で入院単価が増加し入院収入が増加するとともに、外来においても新たに特定疾患療養管理料の加算も可能となり外来収入が増加した。新型コロナウイルスの影響により患者数が減少したが、入院・外来ともに単価が増加し収支改善となった。
- ・ 10～11月に増床した地域包括ケア病棟の稼働率が落ち込んだが、病床運営管理委員会で新入院患者数の増加および在院患者数の増加に向けた方策に取り組み、目標の稼働率を達成した。

##### 2) 新たな支援（補助金）の獲得に向けた協議

- ・ 新型コロナウイルス関連の補助金については施設課および本部と連携しながら対応し、設備補助金・運営費補助金を申請し受給した。

##### 3) 新型コロナウイルスへの対応

- ・ 令和2年2月にダイヤモンド・プリンセス号での新型コロナウイルス感染者対応に職員を派遣したことに始まり、第1波から第3波と1年間を通して感染症病棟で患者受け入れ続けた。同時に接触者外来・発熱外来を設置し地域の感染拡大防止に努めた。
- ・ 新型コロナウイルスのワクチン接種について、医療従事者接種や地域住民向け集団接種計画について地元行政と協議を重ね、令和3年度のスムーズな接種へとつなげた。

##### 4) 広報活動の充実

- ・ リニューアルした病院ホームページにおいては、従来からの休診情報に加え、新型コロナウイルスの感染予防対策や連休中における発熱外来の臨時診察の告知など、タイムリーな情報発信に努めたことでホームページへのアクセス件数が増加した。

- ・令和2年11月にはドローンによる離島への薬品搬送実証実験に協同参画し、TV取材・放映4局、新聞の記事掲載3社、Webニュースでは10社以上に取り上げられた。

#### 5) 住民向けイベントの中止

- ・毎年、JAあいち知多美浜事業部、武豊事業部（平成26年度より）と連携し、JA組合員への健康増進を目的に両町の産業まつりへ参画してきたが、新型コロナウイルスの感染拡大のためイベントの開催が中止となった。
- ・毎年医師が住民向けに講演を行ってきたが、新型コロナウイルスの感染拡大により開催を中止した。

#### 6) 次年度事業計画の作成

- ・令和2年7月中旬～8月中旬にかけて各診療科、部門とヒアリングを行い、次年度での各部門の方針や目標など情報収集するとともに、各部門の適正な人員配置等についての考えを確認した。

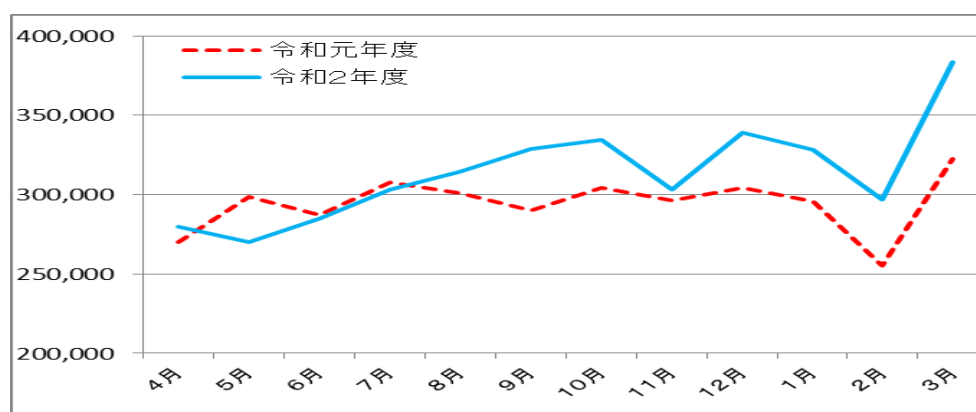
#### 7) 経営管理（収支分析と報告）

- ・毎月、収入・費用を前年対比、予算対比で増減分析を実施し、事務役付者会議や管理者会議、運営会議にて収支報告を行い、収入や費用に対する意識統一を図った。
- ・病床再編により収支改善が図られ、改善状況を継続するためにもわかりやすい資料を提示して職員周知を行った。

## (2) 実績報告

### 1) 収支改善の状況について

### 粗付加価値の推移（千円）



8月の病床再編以降収入が増加し、粗付加価値が増加し収支が改善した。

### 2) JAポイントカード付与件数について

- ・令和2年度においては新型コロナウイルスの影響によりほとんどの教室・研修会を中止したためポイント付与件数は数件のみとなった。

## ■ 事務部

### 3. 医事課

#### 活動内容と評価

##### 1) 新型コロナウイルス対応

- ・令和2年度は、新型コロナウイルスに対する緊急事態宣言下でのスタートとなり、その対応に追われた1年となった。発熱外来、接触者外来を中心とした感染疑い患者の診療や感染症病床への入院患者の診療について、日々変化していく感染状況に合わせた運用調整を随時行った。感染症患者の診療報酬請求についても、特例措置が数多く発出される中、当院において算定可能なものを吟味し、適宜、適切な届出と請求に心掛けた結果、受診控えによって患者数が減少する状況下においても、収入を大きく減少させることなく病院経営に貢献することができた。また、美浜町で初の感染患者が発生したことによる入院患者への面会制限対応や、医療従事者への新型コロナワクチン優先接種など、直接的に医事課と関連しない事項についても、事務部門の一員として、その運用構築と実行に参画することができた。

令和2年度末においても、第四波のまっただ中にあり、近隣医療機関でもクラスターが発生するなど、令和3年度に向けても出口の見えない状況が継続していくことが予測できるが、令和2年度の各種の取り組みと同様に医事課の枠を超えた全病院的対応に尽力していく。

##### 2) 令和2年度病床再編

- ・令和2年度病床再編は、平成30年度の病床再編の続編として、知多南部医療圏における地域包括ケアシステムの中で当院の果たすべき役割を明確にする形で実行された。具体的には、高齢化が進行する医療圏において必要性が増していく慢性期救急への対応とそれに付随する回復期機能の充実を柱として当院が担い、慢性期機能である療養病床は他施設にお任せする形で廃止することとなった。実施時期として予定された8月に向けて、病床運営管理委員会を中心に検討が重ねられた。委員会の事務局である医事課も中心となって検討に加わり、再編後の運用や収入シミュレーション、療養病床廃止に関する在院患者への患者説明と移動運用などの提案を行った。また、病床の返還（療養病床）や入院料の細かい転換など複雑な施設基準の届出についても、本部企画課と伴に東海北陸厚生局への確認を取りながら慎重に進めた。結果として、令和2年度の一大事業である病床再編を大きな問題なく実行させることができた。

### 3) 病床稼働の管理

- ・ 8月の病床再編直後は、療養病床入院患者の退院により、増床した地域包括ケア病棟を中心として病院全体の病床稼働が低下した。このため、病床再編前から継続して行っている看護部朝会での病床稼働報告に加えて、病床運営管理委員会を通じて病床稼働の改善案の提案を行った。具体的な取り組みとしては、病床再編時のスローガンであった“救急搬送と紹介患者の受け入れ強化”の視点から、院内の各種会議での意識付けを行ったこと、内科カンファレンスで在院日数の延長策を依頼したこと、レスパイト入院の受け入れをスムーズにするための対策を行ったことなどが挙げられる。これらの取り組みによって、12月以降の病床稼働を大きく改善させることができた。3月に近隣病院での新型コロナウイルスクラスターが発生したことで、救急搬送患者や新規の紹介患者が急増したこともあり、一時的に病床不足になるほどに病床稼働は改善した。病床再編後の病床稼働の管理を通して、患者確保策としての救急患者、紹介患者の受け入れの重要性を再認識することができ、今後もこれらを基本として医事課視点での取り組みを進めていきたい。

### 4) 増収対策

- ・ 令和2年度の大きな取り組みとして8月の病床再編があったが、療養病床から地域包括ケア病棟に転換したことにより入院単価は劇的に上昇した。しかしながら、地域包括ケア病棟は、在棟日数が60日を超えると入院料が大きく低下するというルールがあるため、60日を超えないことが求められる。療養病床から転棟した患者も含めて60日超え患者の件数管理と、病床運営管理委員会を通じた報告を徹底し、少しでも超える患者が少なくなるよう調整を行った。また、病床再編により許可病床数199床となったことで算定が可能となった特定疾患療養管理料についても、各医師への算定方法の周知を行い、1ヶ月で400万円の収入を上げる成果を出した。また、年間を通して都度発出される新型コロナウイルスに関連する特例措置点数の算定に向けた調整を行った。

令和2年度は、新型コロナウイルス対応、病床再編という大きな動きがあった中で、入院診療単価、外来診療単価ともに高い状態を維持することができ、収入増加に寄与することができた。

## ■ 事務部

### 4.総務課

#### 活動内容と評価

##### 1) 要員管理について

- ・各部署とのヒアリング実施により、各部署、各職種における適正な人員を把握しつつ要員計画を策定した。

しかしながら、一部の専門職において、目標とする採用者数に届かなかった職種があり、継続して募集活動を行う。

なお、初期研修医については、2名の定員に対して2名を確保することが出来た。

今後も、人口減少が進む中で、マンパワー確保に向けた取り組みを強化していく。

##### 2) 働き方改革について

- ・医師の働き方改革が進められる中、当院において長年に渡り医師の長時間労働の是正に向けた取り組みを行ってきた結果、A水準の基準値を下回る36協定を締結しつつも、同協定が遵守される環境を維持している。

医師以外の職種においても、36協定の遵守と産業医による職場巡視の活用等により、働きやすい職場環境を整備している。

次年度以降も職員のQOLを高めるべく、取り組みを継続する。

##### 3) 院内保育所について

- ・ママさん職員が安心して働くことが出来るよう、児の受け入れ要件を見直し、より預けやすい環境とした。このことは、職員募集において応募者数の増加にも繋がっている。

職員の知識向上の他、玩具の更新などを進めた結果、利用満足度も高い水準を維持している。

## ■ 事務部

### 5. 施設課

#### 活動内容と評価

##### 1) 新型コロナウイルス感染症補助金の有効活用

多数あるコロナ関連補助金を有効活用し、掛かり増し経費や補助金適用可能な通常購入品を落とすことなく申請を行い、経費支出の削減を図った。また、コロナ終息後も利用可能且つ使用する医療機器の更新も行い、今後の投資を抑えることも行った。

##### 2) 災害拠点体制強化

毎年実施している災害訓練では、例年地域医療を守るための連携強化を目的として、美浜町や南知多町、半田保健所、近隣病院ならびに知多南部消防組合消防本部と協同して地域災害拠点病院災害連携訓練を行ってきたが、コロナ禍のため、外部連携は美浜町との通信訓練のみに縮小した。院内では、実災害を踏まえ、近隣に在住の職員を本部要員として行った。

訓練の前には、各々の役割を災害時の動きを班ごとに理解するために、DMATをファシリテーターとして、説明会および事前打ち合わせを企画した。

また、DMATをファシリテーターのみではなく、陣頭指揮を執るリーダーとしても配置することで、災害時に指を執れる人数を増やし、リスクマネジメントを実施した。

知多半島医療圏内にある桃陵高校へ災害講話およびグループディスカッションを行い、啓発活動を行った。

##### 3) 費用削減

点灯時間の長い照明をLEDに変更し、省エネ効果に努めた。重油の仕入れ先を複数社もち、常に安価な業者にて購入できるよう努めた。

修理に関しても他業種の指標を用いることで人件費等の削減に努めた。

##### 4) 施設整備計画

令和2年度固定資産取得計画に基づき、他院での納入実績を踏まえメーカー間の競争を働かす手法を模索しながら、厳しい価格交渉を行い、予算内にて取得した。

## ■ 医療情報部

### 1. 部門目標

- ・電子カルテの安定稼働
- ・医療安全の充実、診療録管理の充実により、医療の質向上を目指す
- ・経営の安定化に向けた取り組み強化に向けて、個人のスキルアップと人材育成を行う
- ・コンピューターを使用した自動化による業務のスリム化への取り組み

### 2. 活動内容と評価

#### 1) 電子カルテの安定稼働について

- ・定期再起動による停止も含め、電子カルテの障害停止はありませんでした。

#### 2) 経営の安定化に向けた取り組みについて

- ・電子カルテ、医事会計システムに蓄積されたデータから、種々のデータを抽出し、経営分析の基となる数値の提供を行った。

#### 3) 個人のスキルアップについて

- ・業務の自動化に関するソフトウェアを使用するスキルを身につけるために、勉強会などに参加、簡単な業務において一部自動化を行った。

### 3. 業務実績

- 1) 業務支援となるツールの作成において、ME 機器の貸し出し管理のソフトウェアを作成し、借り受け者の手間の軽減に貢献した。



## ■ 保健事業部

### 1. 部門目標

- ・保健収益増収案の検討
- ・会計監査人監査に向けた継続的な準備
- ・人間ドック機能評価認定施設の更新準備

### 2. 活動内容と評価

#### 1) 保健収益増収案の検討

- ・昨年の消費税 UP により料金の再検討を行った結果、わずかであるが値上げできた。また胃カメラ代を 2,000 円から 2,200 円に値上げした。
- ・頸部エコーをオプションに変更したことにより人間ドックの枠の上限が 7→9 枠に増加した。
- ・南知多町のがん検診のうち、大腸・肺がん・前立腺がんを個別でも受診できる契約を締結した。
- ・美浜町がん検診で、乳子宮がん検診に加え、大腸・肺がん・前立腺がん検診を新たに締結した。
- ・南知多町の脳ドックを当院でも実施可能となるよう南知多町に要望したが棄却された。
- ・全国健康保険協会の保健指導活動による生活改善支援を昨年に引き続き実施したが、コロナ禍の影響もあり、動機づけが前年対比 87.5%と減少した。

全国健康保険協会の保健指導活動（特定保健指導）			
	令和元年度（名）	令和2年度（名）	前年対比
動機付け	32	28	87.5%
積極的	19	23	121.1%
合計	51	51	100.0%

#### 2) 会計監査人監査に向けた継続的な準備

- ・健診センターの収入管理を正確に実施
- ・会計・収入管理マニュアルの作成を実施
- ・その他、各種マニュアルの作成を随時実施
- ・人間ドック機能評価受審について検討中
- ・脳ドックの施設認定に必要な症例のうち、申請が可能な脳動脈瘤、無症状脳梗塞の症例があり  
日本脳ドック学会施設認定について検討中

## 3) 人間ドック機能評価認定施設の更新準備

- ・受診者アンケートの実施（2021.1.25～1.29の5日間）
- ・検査結果の3週間以内の送付は、医師不足による読影の遅延より達成できず。
- ・日本脳ドック学会の施設認定を取得すべく、MRIの項目追加と認知症検査を加え実施した。

## 3. 業務実績

## 1) 受診者数と収入

	受診者数（延人数）（通計）			収入（通計）		
	令和元年度 （名）	令和2年度 （名）	前年 対比	令和元年度 （円）	令和2年度 （円）	前年 対比
JA関連	2,120	1,935	91.3%	26,628,612	23,770,760	89.3%
協会健保	1,027	973	94.7%	15,197,119	15,202,090	100.0%
市町村	1,261	1,368	108.5%	13,881,698	14,578,108	105.0%
その他 （企業・ 個人等）	3,699	4,354	117.7%	34,289,698	32,715,937	95.4%
予防接種	554	557	100.5%	1,371,916	2,746,180	200.2%
総合計	8,661	9,187	106.1%	91,369,043	89,013,075	97.4%

\*R2年度：コロナ禍ではあったが、JA関連を除いて前年対比では増加している。

## 4. その他

## 地域健康推進活動について

- ・JA共済健康管理集団保養活動、美浜町・武豊町の産業祭りはコロナ禍のため活動できなかった。

## ■ 地域医療福祉連携部

### 1. 部門目標

#### (1) 質の高いサービスの提供

- ・ 専門職としての実践能力の向上
- ・ 紹介患者の受入体制の強化
- ・ 患者支援チームにおける連携推進
- ・ 相談機能の充実

#### (2) 活気ある職場づくり

- ・ 業務改善・業務の効率化（週休2日制に対応）
- ・ 時間外業務の減少
- ・ 部門内で協力し合える関係性の強化
- ・ 教育環境の整備

#### (3) 効率的な病床運営への参画と関係機関との連携強化

- ・ 在宅医療及び入退院支援の充実
- ・ 病床再々編に伴う積極的なベッドコントロール

### 2. 地域医療福祉連携室

#### (1) 活動内容と評価

##### 1) 利用者に活かす医療講座の開催

- ・ ケアマネジャーや介護事業所向けの医療講座を、年3回(6月10月2月)開催する企画をした。しかし、新型コロナ感染拡大の状況に鑑み、本年度は開催を中止した。

##### 2) アドバンスケアプランニングの普及推進

- ・ 愛知県知多半島医療圏近隣7病院（中京病院、南生協病院、公立西知多病院、国立長寿医療研究センター、半田市立半田病院、常滑市民病院、知多厚生病院）と「知多半島において、アドバンスケアプランニングとエンドオブライフディスカッションを推進する会」に参加した。幹事病院（西知多総合病院）が中心となりWEBで各施設での取り組み状況を情報共有した。昨年度に渡辺病院と作成した「～最期まで自分らしく生きるために～人生会議ノート」を、正面玄関や地域医療福祉連携センターへ設置し普及を図った。

##### 3) 医師会症例検討会ミニレクチャーと合同カンファレンスの開催

- ・ 美浜町と南知多町の医師会と知多厚生病院で、病診連携体制を構築することを目的とした症例検討会ミニレクチャーを年11回開催した。合同カンファレンスは、新型コロナ感染拡大の状況に鑑み、開催を中止した。

- 4) 地域包括ケアシステム参画
    - ・ 美浜町と南知多町の地域包括ケアシステム推進協議会に参加し、地域包括ケアシステム構築に必要な連携課題について検討した。
3. 地域連携課
- (1) 活動内容と評価
    - 1) 質の高いサービスの提供
      - ・ 紹介患者の窓口対応は、予約・予約外にかかわらず対応する体制とし、患者サービスの向上に努めた。
    - 2) 関係機関との連携強化
      - ・ 関係機関に訪問し、病床再々編・レスパイト入院の受け入れ・コロナ患者の受診対応等の案内を行った(訪問回数 60 回)。関係機関と連携が強化されたことと近隣病院の診療制限の影響により、紹介件数は 1,888 件と昨年度より 163 件増加した。受診報告書から経過報告書が必要な患者を抽出し、医師への催促を 10 月から開始した。
    - 3) 活気ある職場作り
      - ・ 紹介患者受け付け開始に伴い、役割分担を見直しスムーズな対応に努めた。日直業務の状況を確認し、必要に応じて関係部署と調整した。計画・希望どおり有給休暇を取得できた。
    - 4) 効率的な病床運営への参画
      - ・ 療養病床の必要基準を維持できた。
  - (2) 実績報告
    - 1) 紹介実績
      - ・ 別表にて
4. 医療福祉相談課
- (1) 活動内容と評価
    - 1) 質の高いサービスの提供
      - ・ 総合相談窓口業務を地域連携課から引き継いだ。医療安全との連携方法の見直しを行い、医療安全委員会での共有方法を確立した。
      - ・ 7 月末の療養病床廃止(介護療養型医療施設含め)に向け、全ての入所者家族と個別面談を行った。廃止に伴う転院をご理解いただけるようケース毎に丁寧に対応し、適切な療養場所への案内に努めた。
      - ・ 参加を予定していた研修会の多くはコロナ禍で中止となったが、課内で定期的に勉強会とケース検討を行い質の維持向上を図った。

## 2) 病床再々編に伴う体制整備と連携強化

- ・ 6～7月に昨年度より多くの医療機関・福祉施設を訪問した。病床再々編の経緯説明と患者の受け入れ条件の共有を行い、受け入れ先の拡大に繋がった。12月には、受け入れ実績のある機関へ訪問し、課題の共有を行った。
- ・ 病床再編に伴い地域包括ケア病棟入院料1、入退院支援加算1など診療報酬を維持できる相談支援体制を整備した。
- ・ 退院時共同指導料2の算定と面会禁止により、介護支援連携指導書1回目の算定は低下した。患者に必要な支援を継続する為、入院時連携は電話にて対応している。

## 3) 活気ある職場づくり

- ・ 休暇取得時の申し送り方法の見直しと記録の定型化に着手した。また、不在者への情報伝達ツールを作成し活用した。
- ・ 病床再々編やスタッフの配置転換のみでなく、プライベートな事情に伴う調整も含め業務体制変更を4回行い、ワークライフバランスを考慮した体制維持を図った。

## (2) 実績報告

## 1) 相談支援延べ件数（退院支援カンファレンス含む）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度	802	736	1,016	1,002	838	940	988	773	857	856	923	1,037	10,768
令和元年度	824	974	839	934	786	724	837	876	858	850	713	773	9,988

## 2) 入退院支援加算1算定件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度	44	37	48	51	35	50	74	44	62	44	51	60	600
令和元年度	42	41	43	39	37	42	34	45	47	38	38	45	491

## 3) 介護支援連携指導料（1回目・2回目）算定件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度	11	12	23	21	17	8	9	4	7	10	11	7	140
令和元年度	23	35	31	39	32	22	17	38	31	33	18	16	335

## 4) 退院時共同指導料2算定件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度	0	1	5	5	1	1	8	7	5	1	1	9	44
令和元年度	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	4

## 5) 患者サポート体制充実加算（総合相談窓口）相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度	7	8	6	6	11	9	5	4	3	8	5	8	80
令和元年度	8	7	5	7	4	10	9	6	6	8	9	5	84

## 6) 国土交通省短期入院利用人数

- ・ 利用人数：1名　利用回数：3回　延べ利用日数：35日

## 7) 主な会義・出張の件数

会議・出張・研修（開催件数）	
委員会	57
院内会議・ミーティング	79
一般病床退院検討会	269
カンファレンス（個別ケースを除く）	94
総合相談カンファレンス	29
医療福祉相談課ミーティング	47
療養病床入退所判定会（7月末まで）	7
医療機関・福祉施設・教育機関等 訪問	32
院外会議（オンライン含む）	12
院内・院外研修会（運営含む）	33

## 8) 学生等の受け入れ

内容	大学・学年・人数	日程
医療ソーシャル ワーク実習	日本福祉大学 社会福祉学部 社会福祉学科 医療専修 4年生1名	2020年10月27日 ～10月30日（4日間）

## 5. 介護管理課

## (1) 活動内容と評価

## 1) 各種届出等の作成

- ・ 運営規程変更や加算届等の届出書類を作成し、提出した。
- ・ 請求業務は、複数体制で行えるように取り組んだ。

## 2) 監査対応

- ・ 指摘事項に対して改善策を出し、関連部署へ周知した。

## (2) 実績報告

## 1) 各種届出内容

## ▽介護療養型医療施設

- ・ 令和2年4月1日 介護サービス内容説明書 変更
- ・ 令和2年6月1日 運営規程 変更
- ・ 令和2年7月31日 指定辞退届け出

## ▽通所リハビリテーション

- ・ 令和2年6月1日 運営規程 変更

## ▽訪問看護ステーション（介護）

- ・ 令和2年4月1日、令和3年3月1日 運営規程 変更
- ・ 令和2年7月1日 看護体制強化加算Ⅱ→Ⅰ 変更

## ▽訪問看護ステーション（医療）

- ・ 令和2年4月1日、令和2年8月1日、令和3年3月1日 運営規程 変更
- ・ 令和2年7月1日 開設者変更

## 2) 監査

- ・ 令和2年12月1日 内部監査Ⅱ（監査室／地域医療福祉連携部、地域連携課、医療福祉相談課、居宅介護支援課、訪問看護ステーション）

## 6. 訪問看護ステーション

## (1) 活動内容と評価

## 1) 質の高いサービスの提供

- ・ 在宅で安心して看取りが出来るように、体制を整備し症状緩和に努め、看護計画・看取りパンフレットで家族に説明、医師への指示確認、他職種との連携を行った。その結果、介護や医療合計22件で昨年同時期と比較し12件増加しターミナルケア加算につながった。
- ・ 退院カンファレンスや、サービス担当者会議に参加し、訪問看護の視点で情報提供情報共有を行った。
- ・ 利用者満足度調査を実施し、ステーションの質評価を行った。「満足」「やや満足」「普通」で90%以上の結果であった。次年度も看護の質を評価するために継続していく。
- ・ 院内外の研修に参加し知識の習得し、部署で伝達講習会を行い知識の向上に努めた。
- ・ リスク件数は確認不足が原因で発生した5件であった。カンファレンスにより再発防止対策を検討し、対策が厳守されているか確認している。

## 2) 病院経営に参画

前年度ターミナルケア加算算定件数が5以下となり算定基準に満たない事により、看護体制強化加算Ⅱとなった。在宅看取り利用者への体制整備を行いターミナルケア加

算算定者が10名となり、7月より看護体制強化加算1を算定出来るようになった。5月より休日、祝日訪問を拡大し、土曜日半日 休日、祝日訪問を実施した。休日訪問することで、ターミナル利用者の急遽な退院や、特別指示書での訪問にも柔軟に対応できた。

- ・ 新規リハビリ利用者に対して30分訪問をケアマネ 利用者に説明し12月より毎月1回の看護師訪問をサービス計画に組み込んでもらうよう改善した。
- 3) 生き生きと働き続けることができる職場環境をつくる
- ・ 訪問開始時間を9時30分から9:00訪問開始へ変更し、時間外の削減できるよう、業務改善を行った。訪問時間を30分早めることで、16時に訪問が終了16時30分にステーションに戻る事で主治医やケアマネへの報告、記録時間が確保できるようになり、日々の訪問記録にて時間外は少なくなった。

## (2) 実績報告

### 1) 利用者数

総合計		医療			介護			総人数	総件数
		実人数	延件数	平均訪問件数	実人数	延件数	平均訪問件数		
令和2年	4月	13	77	3.6	85	568	27	98	645
	5月	15	83	4.8	90	543	30	105	626
	6月	14	105	4.7	91	620	28.1	105	725
	7月	13	96	4.5	95	605	28.8	108	701
	8月	17	114	5.7	90	518	25.9	107	632
	9月	18	108	5.4	92	570	28.5	110	678
	10月	19	98	4.4	95	604	27.4	114	702
	11月	21	93	4.8	87	530	27.8	108	623
令和3年	12月	23	140	6.6	87	568	27.0	110	708
	1月	20	82	4.3	86	517	27.2	106	599
	2月	19	96	5.3	84	473	26.2	103	569
	3月	19	94	4.0	85	533	23.1	104	627
合計		211	1,186	58.3	1,067	6,649	327	1,278	7,835
月平均		17.5	98.8	4.8	88.9	554.0	27.2	106.5	652.9



新規		自宅		医療機関		老人保健施設		合計
		医療	介護	医療	介護	医療	介護	
令和2年	4月	2	2	1	1	0	0	6
	5月	3	3	0	2	0	0	8
	6月	1	2	0	4	0	0	7
	7月	1	2	1	2	0	0	6
	8月	1	5	2	3	0	0	11
	9月	2	3	1	0	0	0	6
	10月	4	3	1	1	0	0	9
	11月	1	0	4	0	0	0	5
	12月	2	1	3	2	0	0	8
令和3年	1月	0	1	3	4	0	0	8
	2月	0	1	2	3	0	1	7
	3月	1	1	4	6	0	1	13
合計		18	24	22	28	0	2	94
月平均		1.5	2.0	1.8	2.08	0	0.1	7.48

終了		軽快		死亡			入院 入所	合計
		医療	介護	自宅	医療施設	施設		
令和2年	4月	1	1	0	0	0	7	9
	5月	0	1	4	1	0	10	16
	6月	0	0	0	3	0	5	8
	7月	0	6	3	0	0	8	17
	8月	0	2	0	2	0	14	18
	9月	1	0	0	1	0	16	18
	10月	2	3	3	1	0	14	23
	11月	0	0	2	2	0	12	16
	12月	1	5	4	2	0	10	22
令和3年	1月	0	2	6	1	0	10	19
	2月	1	1	3	5	0	13	23
	3月	0	4	2	2	0	12	20
合計		6	25	27	20	0	131	209
月平均		0.5	2.0	2.2	1.6	0	10.8	17.4

## 2) 住民登録地別利用者数（介護予防を含む）

医療		南知多町	美浜町	武豊町	合 計
令和2年	4月	9	4	0	13
	5月	11	4	0	15
	6月	10	2	0	12
	7月	10	3	0	13
	8月	12	4	0	16
	9月	11	5	0	16
	10月	10	7	0	17
	11月	14	7	0	21
	12月	13	10	0	23
令和3年	1月	11	8	0	19
	2月	11	8	0	19
	3月	8	11	0	19
合計		130	73	0	203
月平均		9.8	6.8	0	16.7

介護		南知多町	美浜町	武豊町	常滑市	合 計	総人数 (医療+介護)
令和2年	4月	54	30	1	0	85	98
	5月	57	32	1	0	90	105
	6月	61	31	1	0	93	105
	7月	59	34	1	0	94	107
	8月	57	32	1	0	90	106
	9月	59	32	1	0	92	108
	10月	60	34	1	0	95	112
	11月	56	30	1	0	87	108
	12月	56	30	1	0	87	110
令和3年	1月	56	29	1	0	86	105
	2月	54	29	1	0	80	99
	3月	54	30	1	0	85	104
合計		683	373	12	0	1,068	1,267
月平均		56.9	31.0	1.0	0	90.5	105.5

## 7. 居宅介護支援事業所

## (1) 活動内容と評価

## 1) ケアマネジメント能力の向上

- ・ 美浜町介護支援専門員連絡会主催の研修会などに参加し、個々のケアマネジメント技術及び知識の向上を図った。
- ・ 事業所内ミーティングで事例報告を行い、事例の共有を行った。

## 2) スムーズな退院支援

- ・ 利用者が入院した際の情報提供と入院時連携指導カンファレンスへの参加を積極的に  
行い、スムーズな退院につなげるように取り組んだ。
- ・ 退院支援上の課題について在宅療養支援委員会にフィードバックして、病院内で共有を  
図った。

## 3) 業務の効率化

- ・ 事業所内スタッフ間のサポート体制を再構築して、休暇が取りやすい環境を整備した。

## (2) 実績報告

## 1) ケアプラン作成件数（予防含む）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度	64	67	67	69	67	68	72	72	75	74	71	67	833
令和元年度	89	88	89	85	83	87	84	84	86	82	87	84	1,028

## 2) 一人当たり担当件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
令和2年度	29.0	30.0	29.5	30.0	29.5	29.5	31.0	31.4	32.9	32.4	31.0	29.5	30.5
令和元年度	32.6	32.2	32.6	31.1	30.4	31.9	30.8	30.8	31.5	30.0	31.9	30.8	31.4

## 3) 訪問調査件数（美浜町委託事業）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
令和元年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

## 令和2年度 病診連携 紹介実績

医療機関名		内科	小児科	外科	整形外科	脳神経外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	合計
美浜町	榑原医院	22	0	0	0	0	0	1	0	0	1	24
	(医) 顕心会 辻医院	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	3
	新美医院	2	0	0	0	4	0	0	0	29	0	35
	(医) 浜田整形外科・内科クリニック	54	1	22	16	30	11	3	4	0	18	159
	前田医院	94	1	9	15	39	2	2	0	5	7	174
	美浜クリニック	90	0	2	2	3	6	0	0	2	1	106
	渡辺病院	21	0	12	27	7	10	1	2	2	6	88
	さかい接骨院	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	にわ接骨院	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	5
	老人保健施設 サンバーデン	1	0	0	1	3	0	0	0	0	0	5
	つづきファミリア歯科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
ときしグリーン歯科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
南知多町	(医) 上床医院	17	1	1	1	5	1	0	0	0	2	28
	(医) 大岩医院<豊浜>	88	0	11	16	23	11	2	2	1	0	154
	大岩医院<内海>	18	0	1	4	5	2	2	0	0	2	34
	白井医院	16	0	0	1	7	0	1	0	0	0	25
	夏目医院	3	0	0	2	2	2	1	0	0	0	10
	日間賀島診療所	6	0	2	0	1	0	0	0	0	0	9
	篠島診療所	13	0	2	1	1	1	0	0	1	0	19
	水野医院	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	かっぱのお家クリニック	15	0	2	10	4	1	0	0	0	1	33
	みどりの風 南知多病院	79	0	23	27	14	12	7	1	4	2	169
	柳接骨院	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	4
	竹内歯科医院	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	3
	富歯科医院	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	3
	大地の丘	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18
	特別養護老人ホーム あい寿の丘	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
特別養護老人ホームひだまり	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	

医療機関名		内科	小児科	外科	整形外科	脳神経外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	合計
武豊町	AGC株式会社愛知工場健康管理センター	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	石川医院	15	0	1	0	0	8	2	0	0	1	27
	奥村医院	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4
	くめクリニック	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	榊原整形外科	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	3
	じこう医院	6	0	1	1	0	1	1	0	1	2	13
	耳鼻咽喉科武豊醫院	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	3
	すこやかクリニック	3	0	0	1	1	0	1	0	0	0	6
	ちゅうや整形外科	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	4
	内科・外科 渡辺医院	3	0	2	3	0	0	0	0	0	0	8
	毛受医院	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	よしかねクリニック	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3
	石川病院	12	0	3	9	2	1	0	1	0	0	28
	杉石病院	1	0	4	3	1	1	1	0	0	1	12
	介護老人保健施設 榊原	8	0	0	2	5	4	2	1	1	1	24
接骨院なちゆるる	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
半田市	半田市立半田病院	73	3	6	16	8	1	7	3	2	1	120
	酒井内科・皮フ科	3	0	0	0	0	12	0	0	0	0	15
	藤田病院	0	0	1	0	0	5	0	3	0	1	10
	JFEスチール知多製造所健康管理センター	3	0	0	1	1	0	1	0	0	1	7
	中野整形外科	0	0	2	2	0	3	0	0	0	0	7
	春田内科	5	0	0	0	2	0	0	0	0	0	7
	青山外科	1	0	1	1	1	0	0	0	0	2	6
	半田中央病院	3	0	1	1	1	0	0	0	0	0	6
	あおぞらクリニック	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	3
	半田眼科クリニック	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3
	ふたばクリニック	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	3
	一ノ草病院	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	耳鼻咽喉科 二ツ坂クリニック	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
	中町クリニック	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	平岡医院	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
	結生クリニック	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
宮池接骨院	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2	
上記以外	8	0	1	0	2	0	1	0	3	1	16	

	医療機関名	内科	小児科	外科	整形外科	脳神経外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	合計
常滑市	常滑市民病院	14	0	7	3	2	0	1	2	0	1	30
	伊藤クリニック	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	いのう皮フ科形成外科	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	8
	内田眼科	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
	こいえ内科	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	整形外科いしいクリニック	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	鷹津内科・小児科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	さざんかの丘	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
阿久比町	浅井外科	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	デンソー阿久比診療所	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	(医)ハーブ内科皮フ科	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3
	メディコ阿久比	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
東浦町	大府病院	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
知多市	おのうち皮フ科	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	友田クリニック	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	4
	西知多リハビリテーション病院	1	0	0	2	1	0	1	0	0	0	5
	介護老人保健施設 キューオーエル	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
東海市	公立西知多総合病院	5	0	0	1	0	0	0	0	0	1	7
	愛知製鋼診療所	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	池田耳鼻咽喉科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	いそがいクリニック	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	小川糖尿病内科クリニック	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	道野眼科	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	名和眼科クリニック	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
大府市	国立長寿医療研究センター	5	0	0	0	4	1	0	0	0	1	11
	あいち小児保健医療総合センター	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	共和病院	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	広川レディースクリニック	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1

医療機関名		内科	小児科	外科	整形外科	脳神経外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	合計
名古屋市	名古屋市立大学病院	28	0	4	8	0	20	5	2	12	0	79
	名古屋大学医学部附属病院	10	0	0	0	2	1	0	0	1	1	15
	名古屋記念病院	9	0	0	0	1	0	1	0	1	0	12
	名古屋第一赤十字病院	3	1	3	0	0	0	0	0	0	0	7
	名古屋ハートセンター	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
	笠寺病院	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	4
	眼科杉田病院	0	0	0	0	1	0	0	0	3	0	4
	名古屋市立西部医療センター	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3
	名古屋第二赤十字病院	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	3
	愛知県がんセンター	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	3
	AOI名古屋病院	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
	総合病院 南生協病院	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	だいどうクリニック	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	3
	中京病院	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	3
	名古屋共立病院	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	重工記念病院	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
	大同病院	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
	(医)野垣会 野垣病院	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
	毎日ドクター	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
	名鉄病院	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2
渡辺医院	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
上記以外	9	0	1	4	3	3	1	4	3	2	30	

医療機関名		内科	小児科	外科	整形外科	脳神経外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	合計
その他県内	藤田医科大学病院	8	0	3	1	3	0	2	0	5	0	22
	刈谷豊田総合病院	5	0	1	1	1	0	0	0	0	0	8
	安城更生病院	2	0	1	0	0	0	1	0	0	0	4
	稲沢厚生病院	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	4
	愛知医科大学病院	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	安形医院	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	3
	海南病院	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	小林記念病院	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2
	豊川市民病院	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
	堀眼科医院	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
上記以外	8	1	1	5	1	1	1	5	3	1	27	
愛知県外	7	2	4	7	4	1	0	10	4	0	39	
合計	885	11	148	226	209	136	53	48	96	71	1,883	



# 院外活動報告

---

学会・研究会発表……………	94
院外講演会・勉強会講師……………	95
論文・雑誌掲載……………	96

## ■ 学会・研究会発表

主催／タイトル	発表者／職種	日付／場所（※開催地）
第 48 回名古屋市医師会中村区糖尿病研究会 「糖尿病にかかわるチーム医療について」	丹村 敏則 (医師)	令和 2 年 10 月 31 日 WEB 発表 会場：TKP ガーデンシティ PREMIUM (名古屋市)
浜松市健康 2020 市民講演会 「糖尿病と栄養：わかりやすく学ぶ糖尿病対策」	丹村 敏則 (医師)	令和 2 年 9 月 12 日 オンデマンド (ライブ・WEB) 会場：浜松医師会 (浜松市)
第 69 回日本農村医学会学術総会 「医療依存度の高い患者の退院支援のあり方」	沖田英人 (看護師)	令和 2 年 10 月 15 日 (木) Web 発表
第 69 回日本農村医学会学術総会 「病棟再編における固定チーム・デイパートナー看護方式導入による効果と課題」	澤田美智子 (看護師)	令和 2 年 10 月 15 日 (木) Web 発表
第 69 回日本農村医学会学術総会 「消化器外科手術時の SSI 対策への取り組み」	相川浩孝 (看護師)	令和 2 年 10 月 15 日 (木) Web 発表
第 48 回 JA 愛知厚生連 「外来継続看護の見直し～看護記録の改善に向けての取り組み～」	吉田健一 (看護師)	令和 2 年 10 月 31 日 (土) 録画配信
第 29 回愛知県理学療法学会学術大会 「拡散テンソルトラクトグラフィを用いて治療戦略を行った一症例」	内田 周汰 (理学療法士)	令和 2 年 8 月 9 日 (日) Web 発表
第 7 回日本地域理学療法学会学術大会 「遷延性意識障害を合併した青年インフルエンザ脳症患者における気管切開下人工呼吸器装着状態での自宅搬送および住宅介護支援の経験」	大橋 朗 (理学療法士)	令和 2 年 11 月 7 日 (土) Web 発表

主催／タイトル	発表者／職種	日付／場所（※開催地）
第7回日本地域理学療法学会学術大会 「高齢心不全患者の再入院までの期間に影響する因子の検討」	宮川 嘉人 (理学療法士)	令和2年11月7日(土) Web発表

### ■ 院外講演会・勉強会講師

主催／タイトル	発表者	日付／場所（※開催地）
首都圏関東地区 病院勤務医のための漢方セミナー（Ⅰ） 「フレイル対策と漢方」	丹村 敏則 (医師)	令和2年8月27日 WEB講演 会場：TKP ガーデンシティ PREMIUM（名古屋市）
浜松市健康2020 市民講演会 「糖尿病と栄養：わかりやすく学ぶ糖尿病対策」	丹村 敏則 (医師)	令和2年9月12日 オンデマンド(ライブ・WEB) 会場：浜松医師会（浜松市）
首都圏 漢方 WEB セミナー 「チーム医療と漢方薬」	丹村 敏則 (医師)	令和2年10月16日 WEB講演 会場：TKP 名古屋ルーセントタワー（名古屋市）
首都圏関東地区 病院勤務医のための漢方セミナー（Ⅱ） 「腸の活用と漢方」	丹村 敏則 (医師)	令和2年10月29日 WEB講演 会場：TKP ガーデンシティ PREMIUM（名古屋市）

## ■ 論文・雑誌掲載

発行／タイトル	掲載者／職種	日付／ページ
漢方と最新治療 第29巻2号 歩行不能、経口摂取不能で入院、 急性期治療後の真武湯が有効で あった1例	丹村 敏則 (医師)	令和2年5月25日発行 P125 - P130
漢方と最新治療 第29巻4号 高齢者の不眠・不穏に対する漢方 薬の使用経験	丹村 敏則 (医師)	令和2年11月25日発行 P271 - P278
漢方と最新治療 第30巻1号 緊急入院後に経腸ルートからの 栄養と漢方薬の投与が有効であ った1例	丹村 敏則 (医師)	令和3年2月25日発行 P53 - P58
医事業務 No. 584 医事課職員に求める経営アプロ ーチ	田實 直也 (事務)	令和2年6月1日号 P23
医事業務 No. 585 中小規模病院で実践する病院広 報の効率的な「やり方」	田實 直也 (事務)	令和2年7月1日号 P28～P35
病院羅針盤 No. 172 オンライン診療のその先へ ～医薬品輸送にドローンは使え るのか?～	田實 直也 (事務)	令和2年8月1日号 P30～P32
医事業務 No. 596 ドローンによる薬品搬送実証実 験レポート	田實 直也 (事務)	令和3年2月1日号 P4～P10
文化連情報 No. 515 離島へ薬をドローンで配達 ～オンライン診療とオンライン 服薬指導後の医薬品搬送を想定 した無人飛行ロボットの実証実 験を実施～	田實 直也 (事務)	令和3年2月号 P36～P38

